Hokkaido University News

北大時報

令和２年
12

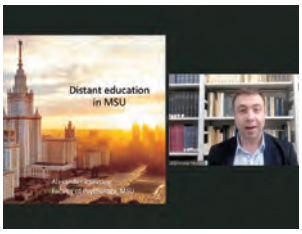
No. 801　December 2020

令和2年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏
令和2年度北海道大学鈴木章記念賞―自然科学実験― 被表彰者の決定
大学入学共通テスト　本学一般選抜個別学力検査等　実施体制等の決定

No.801　令和2年

目　次　12

Academic Fantasista　11月は川堀真人特任准教授（北海道大学病院）が札幌北斗高等学校で出張講義を実施



HaRP事業オンライン会議「コロナ禍における日露国際教育交流の実践」を開催

全学ニュース

1　令和２年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から２氏

2　大学入学共通テスト　本学一般選抜個別学力検査等　実施体制等の決定

5　総合型選抜の実施

5　国際総合入試合格者の発表

6　帰国子女入試合格者の発表

7　パブリックスピーキング研修を開催

7　記者懇談会を開催

8　Academic Fantasista　11月は川堀真人特任准教授（北海道大学病院）が札幌北斗高等学校で出張講義を実施

9　北大フロンティア基金

11　令和２年度北海道大学鈴木章記念賞―自然科学実験―被表彰者の決定

12　「日本留学海外拠点連携推進事業（サブサハラ・アフリカ）」主催のマダガスカル・エチオピア対象オンライン「日本留学フェア」を開催

13　「日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア・CIS）」主催のオンライン日本留学フェアを開催

14　HaRP事業オンライン会議「コロナ禍における日露国際教育交流の実践」を開催

15　農学研究院食水土資源グローバルセンター（GCF）主催国際シンポジウム「コロナ禍からのグリーン・リカバリー」の開催

16　令和２年度防災・日本再生シンポジウム「海溝型地震による広域複合災害の想定と効果的な減災対策・避難を考える」を開催

部局ニュース

17　「2019年度卒論ポスター展示」を総合博物館で開催

18　情報基盤センター・サイバーセキュリティセンターが「セキュリティ・ミニキャンプ in 北海道」を開催

18　北海道大学 学芸員リカレント教育プログラム企画展「DISTANCE ＃学びと距離の物語」関連事業「ミュージアムグッズサミット」第１～３回を開催

20　理学研究院で消防訓練を実施

21　第18回脳科学研究教育センターシンポジウム「感覚と運動の神経基盤の進化～非哺乳類脳から学ぶ計算原理～」を開催

22　薬学研究院・薬学部で「実験動物慰霊祭」を挙行

22　工学系部局で自衛消防訓練等を実施

23　工学系部局で安全衛生管理講演会を開催

24　人獣共通感染症リサーチセンターが，第８回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議をオンラインで開催

25　函館キャンパスで『秋のキャンパス一斉清掃』を実施

諸会議の開催状況　26

学内規定　27

表敬訪問　28

人事　29

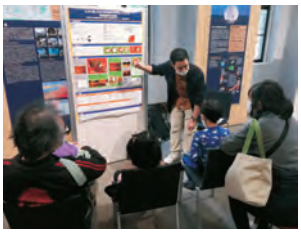
29　新任教授紹介

資料

30　令和２年度外国人留学生数（令和２年11月１日現在）

31　令和２年度国別外国人留学生数（令和２年11月１日現在）

32　北大時報掲載記事事項別一覧


「2019年度卒論ポスター展示」を総合博物館で開催

情報基盤センター・サイバーセキュリティセンターが「セキュリティ・ミニキャンプ in 北海道」を開催

北海道大学 学芸員リカレント教育プログラム 企画展「DISTANCE ＃学びと距離の物語」関連事業

人獣共通感染症リサーチセンターが，第8回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議をオンラインで開催

表　紙：農学研究院食水土資源グローバルセンター（GCF）主催
国際シンポジウム「コロナ禍からのグリーン・リカバリー」の開催（関連記事15頁に掲載）

裏表紙：キャンパス風景⑨　アイヌ・先住民族研究センター前の歩道（北8条西6丁目付近）

▌全学ニュース

令和２年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏

本年度の医学教育等関係業務功労者として，本学から北海道大学病院医療技術部臨床工学技士／副技師長　石川勝清氏，北海道大学病院栄養管理部副栄養士長　西村雅勝氏が表彰されました。

この表彰は，文部科学省が毎年，医学または歯学に関する教育・研究若しくは患者診療等の補助的業務に従事し，顕著な功労のあった方々に対して行うものです。

各氏の表彰にあたっての感想を紹介します。

（総務企画部広報課）

北海道大学病院　医療技術部
臨床工学技士／副技師長
石川（いしかわ）　勝清（まさきよ）　氏

この度，文部科学省の医学教育等関係業務功労者表彰を賜り，身に余る栄誉と深く感謝申し上げます。ご支援いただきました関係者の皆様に心より厚くお礼申し上げます。

私は，昭和61年に北海道大学医学部附属病院麻酔科に文部技官として採用されました。採用に当たっては高気圧酸素治療を担当する事と麻酔科医師の研究を手伝う事が条件でした。大学では経済学部を経ての入職でありまして当初は医学の知識等を持ち合わせておらず戸惑いの毎日でしたが，今，思い返しますと研究の手伝いを通じて麻酔科の諸先生方に医学の基礎を教わったことが現在に至るまで大変役立つ事となりました。高気圧酸素治療に関しましても専門書はなく，手元に在るのは学会が発行している入門書と呼びましょうか，薄い冊子だけという状況でありました。そのような中，札幌市内では高気圧酸素治療についてもっと深く知り勉強したいという同士を募り研究会を立ち上げ，講師の先生を招き勉強させていただくという事を毎年行っておりましたが，いつの間にか規模も大きくなり北海道の熱意が日本高気圧環境・潜水医学会にも認められ，全国でも先駆けて正式に学会の地方会と認められるまでになりました事は大変良い経験となりました。

現在，臨床工学技士という資格でお仕事をさせていただいておりますが，これは昭和62年５月に制定された医学と工学の両面を兼ね備えた国家資格であり，私が入職後に認可された医療において比較的新しい資格です。医療は日進月歩でございまして，新しい治療やそれに付随する医療機器の操作を修得するため，日々，精進の毎日ですが，今まで頑張ってこられたのも関係者の皆様をはじめ，同僚に支えられているからだとこの受賞にあたり改めて気づかせていただきました。

最後になりますが，お世話になりました諸先生方，上司はじめ同僚のご支援に深く感謝，お礼申し上げます。

（北海道大学病院）

北海道大学病院　栄養管理部
副栄養士長
西村（にしむら）　雅勝（まさかつ）　氏

この度，文部科学省より医学教育等関係業務功労者として加分な賞を頂戴し深く感謝申し上げます。また，表彰にあたりご推薦，ご尽力いただきました関係各位の皆様に心より厚くお礼申し上げます。

入職して24年経ちますが，医療情報のシステム化，病棟地階の厨房から現在の厨房への移転，NSTチーム（栄養サポートチーム）の立ち上げ等，目まぐるしい変化がありました。主な業務となる栄養食事指導では男性栄養士であることが患者さんにとって珍しく，しばしば驚かれました。入職間もなくから関わっている患者さんと，当時を思い出すと笑い話となっています。

NST参加当初は様々な病態の患者さんへどのように対応すれば栄養状態改善につながるか，医師のアドバイスを受けながら，方向性を検討する日々で勉強不足を痛感しました。それでも，関わった患者さんの栄養状態が改善し，元気に退院されたことが励みになったことを覚えております。

平成26年には道内の病院レシピコンテストで受賞し，新聞に掲載された当日の栄養指導の患者さんにお祝いの言葉を頂いたことも忘れられません。地域の皆様方に，少しでも食事を通して健康に注意してもらえればとの想いもあり，現在もレシピ提供を行っております。

最後に，諸先輩方，多職種の皆様，同僚に心より感謝いたします。今後も業務に精進して参ります。

（北海道大学病院）

大学入学共通テスト　本学一般選抜個別学力検査等　実施体制等の決定

11月25日（水）開催のアドミッションセンター企画運営会議・総務部門・試験場部会拡大会議において，令和３年度大学入学共通テスト及び本学一般選抜個別学力検査等に係る実施体制等を決定しました。

なお，大学入学共通テストについては，藤女子大学，天使大学，東海大学札幌キャンパス，北海道武蔵女子短期大学との共同実施となります。

主な事項は，次のとおりです。

（学務部入試課）

大学入学共通テスト

１　実施本部の設置

試験実施について総括し，連絡・調整するため実施本部を設け，その下に総務部，試験場部，救急医療部，連絡部及び広報部を置く。

２　試験場及び担当学部

（札幌市）

試験場・会場	試験場所	担当学部等
北海道大学試験場		
●農学部会場	農学部	農学部
○人文・社会科学総合教育研究棟会場	人文・社会科学総合教育研究棟	※法学部・経済学部
○理学部会場	理学部	理学部
○工学部会場	工学部	工学部
○高等教育推進機構Ａ会場	高等教育推進機構Ｅ棟１階，２階	※教育学部・文学部
○高等教育推進機構Ｂ会場	高等教育推進機構Ｅ棟３階	※歯学部・薬学部
○保健科学研究院会場	保健科学研究院	※医学部・獣医学部
△高等教育推進機構Ｎ会場	高等教育推進機構Ｎ棟	実施本部・武蔵女子短大
○藤女子大学試験場	藤女子大学	※天使大学・藤女子大学・東海大学

※は，複数学部で担当する試験場の主担当学部

（函館市）

試験場	試験場所	担当学部
○北海道大学水産学部試験場	水産学部	水産学部

注：○･･･第１日程のみ実施
　　●･･･第２日程のみ実施
　　△･･･第１日程・第２日程で実施

なお，監督者説明会を令和３年１月８日（金）及び１月13日（水）に学術交流会館で開催しますので，監督者等となった方はいずれか一方に必ず出席願います。

本学一般選抜個別学力検査等

1　実施本部の設置

試験実施について総括し，連絡・調整するため実施本部を設け，その下に総務部，出題部，採点部，試験場部，救急医療部，連絡部及び広報部を置く。

2　試験場及び担当学部

前期日程

試験場	試験場所	担当学部
第１試験場（農学部）	農学部	農学部
第２試験場（人文・社会科学総合教育研究棟）	人文・社会科学総合教育研究棟	※文学部・教育学部
第３試験場（理学部）	理学部	理学部
第４試験場（歯学部）	歯学部	歯学部
第５試験場（工学部）	工学部	工学部
第６試験場（高等教育推進機構Ｅ棟１階，２階）	高等教育推進機構Ｅ棟１階，２階	※獣医学部・医学部
第７試験場（高等教育推進機構Ｅ棟３階）	高等教育推進機構Ｅ棟３階	薬学部
第８試験場（高等教育推進機構Ｓ講義棟）	高等教育推進機構Ｓ講義棟	学務部
第９試験場（保健科学研究院）	保健科学研究院	※経済学部・法学部
第10試験場（高等教育推進機構Ｎ棟２階）	高等教育推進機構Ｎ棟２階	実施本部

※は，複数学部で担当する試験場の主担当学部

（上記10試験場で受験者を収容できない場合，別の試験場を設けることがある。）
（第６試験場は，高等教育推進機構大講堂，Ｎ１，Ｎ２の教室を含む。）
（第６試験場の２日目は医学部が担当する。）

後期日程

試験場	試験場所	担当学部
第１試験場（農学部）	農学部	農学部
第２試験場（人文・社会科学総合教育研究棟）	人文・社会科学総合教育研究棟	※法学部・経済学部
第３試験場（理学部）	理学部	理学部
第４試験場（薬学部）	薬学部	薬学部
第５試験場（工学部）	工学部	工学部
第６試験場（高等教育推進機構Ｅ棟１階，２階，３階）	高等教育推進機構Ｅ棟１階，２階，３階	※教育学部・文学部
第７試験場（獣医学部）	獣医学部	獣医学部
第８試験場（保健科学研究院）	保健科学研究院	医学部
第９試験場（水産学部）	水産学部	水産学部
第10試験場（高等教育推進機構Ｎ棟２階）	高等教育推進機構Ｎ棟２階	実施本部

※は，複数学部で担当する試験場の主担当学部

なお，監督者説明会を前期日程は令和3年2月17日（水）及び2月18日（木），後期日程は３月４日（木）及び３月10日（水）に高等教育推進機構大講堂で開催しますので，前期日程又は後期日程において，監督者等となった方はいずれか一方に必ず出席願います。

令和3年度　北海道大学入学試験

種　　類【注1】		出願期間等	選考期日（試験日）		合格発表日	入学手続期間	選考方法
総合型選抜 理学部（地球惑星科学科），医学部（医学科，保健学科（看護学専攻，作業療法学専攻）），歯学部，工学部（応用理工系学科，環境社会工学科）），水産学部		学生募集要項公表 R2.6.23（火）～公表中 インターネット出願登録期間 R2.10.2（金）～10.8（木）	第1次選考	書類選考	R2.11.6（金）	R3.2.17（水）～2.22（月）【注4】	個別学力検査を免除し，大学入学共通テスト，課題論文等及び面接を課す。
			第2次選考	R2.11.22（日） 課題論文（総合問題），面接	R3.2.16（火）【注4】		
			大学入学共通テスト	下欄参照			
国際総合入試		学生募集要項公表 R2.6.23（火）～公表中 インターネット出願登録期間 R2.10.2（金）～10.8（木）	第1次選考	書類選考	R2.11.6（金）	R2.12.11（金）～12.16（水）ただし，条件付合格の場合はR3.2.17（水）～2.22（月）	大学入学共通テスト及び個別学力検査を免除し，面接を課す。
			第2次選考	R2.11.22（日） 面接	R2.12.8（火）ただし，条件付合格の場合の最終合格発表R3.2.16（火）		
帰国子女入試		学生募集要項公表 R2.6.23（火）～公表中 インターネット出願登録期間 R2.10.2（金）～10.8（木）	第1次選考	書類選考	R2.11.6（金）	R2.12.11（金）～12.16（水）	大学入学共通テスト及び個別学力検査を免除し，課題論文等及び面接を課す。
			第2次選考	R2.11.22（日） 課題論文（総合問題），面接	R2.12.8（火）		
大学入学共通テスト【注2】		受験案内公表 R2.9.1（火）～公表中 出願期間 R2.9.28（月）～10.8（木）	（ⅰ） 第1日程	R3.1.16（土）～1.17（日）			
			（ⅱ） 第2日程	R3.1.30（土）～1.31（日）			
			（ⅲ） 特例追試験	R3.2.13（土）～2.14（日）			
一般選抜【注3】	前期日程	学生募集要項公表 R2.10.30（金）～公表中 インターネット出願登録期間 R3.1.18（月）～2.5（金）	第1段階選抜	大学入学共通テストの成績による（志願者が多い場合）	R3.2.16（火）	R3.3.10（水）～3.15（月）ただし，来学する場合はR3.3.13（土）～3.15（月）	大学入学共通テスト及び個別学力検査等を課す。
			第2段階選抜	R3.2.25（木） 個別学力検査 R3.2.26（金） 面接（医学部医学科，歯学部）	R3.3.6（土）		
	後期日程		第1段階選抜	大学入学共通テストの成績による（志願者が多い場合）	R3.2.26（金）	R2.3.22（月）～3.26（金）ただし，来学する場合はR3.3.25（木）～3.26（金）	大学入学共通テスト及び個別学力検査等を課す。
			第2段階選抜	R3.3.12（金） 個別学力検査等	R3.3.20（土）		
私費外国人留学生（学部）入試		学生募集要項公表 R2.10.1（木）～公表中 インターネット出願登録期間 R2.12.21（月）～12.25（金）	第1次選考	書類選考	R3.1.27（水）	R3.3.10（水）～3.15（月）ただし，来学する場合はR3.3.13（土）～3.15（月）	大学入学共通テストを免除し，各学部が指定する「第2次選考の実施科目等」及び日本留学試験を課す。
			第2次選考	R3.2.19（金） 面接	R3.3.6（土）		
令和4年度 私費外国人留学生（現代日本学プログラム課程）入試 （令和4年4月入学）	第1期募集	学生募集要項公表 R2.7.29（水）～公表中 インターネット出願登録期間 R2.10.26（月）～11.17（火）		R3.1.7（木）～1.15（金） 書類選考，面接	R3.2.16（火）	R4.3月	書類選考及び面接を課す。
	第2期募集	学生募集要項公表 R2.7.29（水）～公表中 インターネット出願登録期間 R3.2.1（月）～2.26（金）		R3.4.8（木）～4.15（木） 書類選考，面接	R3.5月 中旬		
私費外国人留学生（Integrated Science Program（学士課程））入試 （令和3年10月入学）		学生募集要項公表 R2.7.29（水）～公表中 インターネット出願登録期間 R2.11.13（金）～11.30（月）	第1次選考	書類選考	R3.2.16（火）	R3.3月	書類選考及び面接を課す。
			第2次選考	R3.2.22（月）～3.5（金） 面接	R3.3.24（水）		

【注1】令和3年度入学者選抜より，以下のとおり入試の名称が変更となっている。
AO入試 → 総合型選抜　　一般入試個別学力検査等 → 一般選抜個別学力検査等　　大学入試センター試験 → 大学入学共通テスト

【注2】
① 入学志願者が新型コロナウイルス感染症の影響に伴う学業の遅れ（以下この項において「学業の遅れ」という。）や同感染症に罹患した場合等にも対応できる選択肢を確保するため，下記②のとおり，日程を設定することとする。（ⅱ）については，学業の遅れを理由に当該日程を選択する者を対象とするとともに，（ⅰ）を疾病等の理由で受験できなかった者の追試験として実施することとし，全都道府県に試験場を設置する。
上記の措置に加えて，学業の遅れを理由に（ⅱ）を選択した入学志願者が疾病等を理由に受験できなかった場合に備え，別途，特例追試験を実施する。
② その上で試験期日等は以下のとおりとする。
（ⅰ）R3.1.16（土），17（日）　（ⅱ）R3.1.30（土），31（日）※（ⅰ）の追試験としても実施。
（ⅲ）特例追試験　R3.2.13（土），14（日）※（ⅱ）の追試験として実施。

【注3】
① 大学入学共通テスト（ⅲ）特例追試験を受験した者については，以下のとおり取扱う。
・出願期間：R3.2.15（月）～2.18（木）　・前期日程第1段階選抜合格発表：R3.2.22（月）　・後期日程第1段階選抜合格発表：R3.2.26（金）
② 出願した者の内，「新型コロナウイルス感染症に罹患又はその疑いにより受験できなかった者」を対象として，追試験をR3.3.22（月）に実施する。
なお，追試験の合格発表はR3.3.26（金）に行い，入学手続期間はR3.3.27（土）～3.30（火）とする。

【注4】
大学入学共通テストの（ⅲ）特例追試験を受験した者については，以下のとおり取扱う。
・合格発表：R3.2.22（月）　・入学手続期間：R3.2.24（水）～2.27（土）

（学務部入試課）

総合型選抜の実施

令和３年度総合型選抜は，募集人員54名に対し，118名の出願がありました。自己推薦書，個人評価書等の出願書類による第１次選考合格者に対して，11月22日（日）に第２次選考の課題論文・総合問題と面接試験を実施しました。第２次選考の成績に加え，後日行われる大学入学共通テストの成績を加味し，２月16日（火）に合格者発表を行います。

（学務部入試課）

令和３年度総合型選抜志願者数及び志願倍率一覧

学部・学科等			募集人員	志願者数	倍　率
理学部地球惑星科学科			5	20　（ 2）	4.0
医学部	医学科		5	8　－	1.6
医学部	保健学科	看護学専攻	7	20　（13）	2.9
医学部	保健学科	作業療法学専攻	4	9　（ 2）	2.3
歯学部			5	5　（ 1）	1.0
工学部	応用理工系学科（応用マテリアル工学コース）		4	2　（ 1）	0.5
工学部	環境社会工学科（社会基盤学コース）		4	2　－	0.5
水産学部			20	52　（ 8）	2.6
計			54	118　（27）	2.2

※（　）内の数字は，道内高校出身者で内数。

国際総合入試合格者の発表

国際総合入試は，「北海道大学近未来戦略150」に掲げるグローバル人材の育成のため，国や地域，学問分野を超えたボーダーレスなグローバル社会を生き抜き，リードする意欲と資質を持った人材を人物本位で選抜することを目的として平成30年度入試より導入したもので，主な対象者を国際バカロレア資格の取得者等としています。

令和３年度国際総合入試は，募集人員15名に対し，31名の出願がありました。自己推薦書，志望理由書等の出願書類による第１次選考合格者に対して，11月22日（日）に第２次選考の面接試験を実施し，12月８日（火）に合格者発表が行われ，15名が合格しました。このうち，11名は国際バカロレアの最終スコアが１月に発表のため，条件付合格となっています。

なお，条件付合格者の最終合格発表は，２月16日（火）を予定しています。

（学務部入試課）

令和３年度国際総合入試合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者数	倍率	合格者数（条件付合格者含む）
総合入試	文系	5	16　（11）	3.2	6（ 6） ［ 4（ 4）］
総合入試	理系	10	15　（ 6）	1.5	9（ 6） ［ 7（ 4）］
計		15	31　（17）	2.1	15（12） ［11（ 8）］

※（　）内の数字は，女子で内数。
※［　］内の数字は，条件付合格者数で内数。

帰国子女入試合格者の発表

令和３年度帰国子女入試は，10学部に49名の出願がありました。出願書類による第１次選考合格者に対し，11月22日（日）に第２次選考の課題論文等と面接試験を実施し，12月８日（火）に合格発表が行われ，12名が合格しました。

（学務部入試課）

令和３年度帰国子女入試合格者数等一覧

学部・学科等			募集人員	志願者数	合格者数
文学部			若干名	4 （ 4）	－ －
教育学部				－ －	－ －
法学部				5 （ 1）	2 －
経済学部				2 －	－ －
理学部	数学科			6 －	2 －
	物理学科			2 －	1 －
	化学科			－ －	－ －
	生物科学科	生物学専修分野		1 －	－ －
		高分子機能学専修分野		1 －	－ －
	地球惑星科学科			－ －	－ －
医学部	医学科			5 （ 3）	－ －
	保健学科	看護学専攻		1 －	－ －
		放射線技術科学専攻		－ －	－ －
		検査技術科学専攻		－ －	－ －
		理学療法学専攻		－ －	－ －
		作業療法学専攻		－ －	－ －
歯学部				－ －	－ －
薬学部				3 （ 2）	2 （ 1）
工学部	応用理工系学科			3 （ 1）	2 （ 1）
	情報エレクトロニクス学科			4 （ 1）	1 －
	機械知能工学科			3 －	1 －
	環境社会工学科			2 －	1 －
農学部				2 －	－ －
獣医学部				3 （ 3）	－ －
水産学部				2 －	－ －
計				49 （15）	12 （ 2）

※（　）内の数字は，女子で内数。

パブリックスピーキング研修を開催

総務企画部広報課では，11月30日（月）に事務局において，総長及び理事を対象にパブリックスピーキング研修を開催しました。

本研修は，危機管理対応力の強化を目的に，国内で幅広く広報に関する研修を実施している日経メディアマーケティング株式会社から，実際に記者経験のある方等を講師としてお招きし開催したもので，2017年９月に「パブリックスピーキング講座」と題して開催して以来，３年振りの開催となりました。

初めに行った講義「メディア対応心得～企業役員に求められる取材対応力～」では，多様化するメディアの現状やメディアが求めていることなどについて講師から説明があり，その後，研究費不正受給をテーマとした記者会見トレーニングを行いました。続いて行った「ネガティブな案件での記者会見に必要なスピーチのベーシックとは」と題した講義では，記者会見で必要な「伝える技術」や「聴く技術」などについて講師から説明があり，その後，ハラスメントと個人情報漏洩をそれぞれテーマとした記者会見トレーニングを行いました。

特に，記者会見トレーニングでは長い記者歴を持つ講師が記者役となって参加し，本番さながらの厳しい質疑応答が交わされるなど，緊張感のある研修となりました。

参加者からは，「実際に報道の現場で活躍されてきた方々のお話を聞けてとても参考になった」「人前に立った時の自分の癖を指摘いただけて良かった」などの感想があり，大変有意義な研修となりました。

（総務企画部広報課）

講師による講義の様子

記者会見トレーニングの様子（左から菅原修孝理事，横田　篤理事・副学長，増田隆夫理事・副学長）

記者懇談会を開催

12月９日（水），百年記念会館において，総長と地元記者との交流を深めることを目的とした記者懇談会を開催しました。本学から寳金清博総長及び吉見　宏理事・副学長（広報室長）が出席，北海道教育庁記者クラブ加盟社から７名の参加がありました。

冒頭，寳金総長から，本学が取り組むべき喫緊の課題に柔軟かつ機動的に対応し，戦略的な大学運営の推進に資するために11月24日付けで設置した「北海道大学未来戦略本部」についての話題提供があり，その後，記者の方々との懇談を行いました。

記者からは，未来戦略本部に関する質問のほか，コロナ禍における学生支援の取組等，様々な質問があり，闊達な雰囲気で懇談が進みました。

会の最後には，寳金総長から「メディアが持っているノウハウを学びつつ，学生が持っている発進力を活かした広報活動を進めるために，今後もこのような懇談会を開催していきたい」旨の発言がありました。

（総務企画部広報課）

記者懇談会の様子

記者からの質問に答える寳金総長

記者からの質問に答える
吉見理事・副学長

Academic Fantasista　11月は川堀真人特任准教授（北海道大学病院）が札幌北斗高等学校で出張講義を実施

川堀　真人特任准教授（北海道大学病院脳神経外科）が「医療人として生きる　その大変さと喜びと」と題し，札幌北斗高等学校で講義を行いました。看護大学や医療系専門学校を目指す生徒を中心に受講希望者が90名を超えたため，密を避けるべく11月11日（木），13日（金），17日（火）の３日に分けて実施しました。脳神経外科医の川堀特任准教授は，医師の具体的な仕事内容を説明し，「ただ楽しいだけでなく，重大な責任を伴う場面や辛いこともあるからこそ，仕事を通して成長でき，やりがいを感じます」と語りました。また，自身の研究テーマである，再生医療による脳の治療についても解説しました。

参加した高校生からは，「インターネットや本で調べてもわからない『実際に医療現場で働く方の声』を聴くことができ,自分が臨床検査技師になったときの明確な目標を持つことができました」，「看護師を目指すうえで，責任をしっかりと持ち，患者さんの役に立てるよう勉強を頑張っていこうと思いました」といった声が寄せられました。

医師として日々感じるやりがいについて話す，川堀特任准教授

熱心に耳を傾ける高校生たち

■**日　　時**：令和２年11月11日（水），13日（金），17日（火）16：40－17：50
■**会　　場**：札幌北斗高等学校
■**参加生徒**：１－３年生 第１回：30名，第２回：35名，第３回：29名
■**参加講師**：川堀 真人特任准教授（北海道大学病院）「医療人として生きる その大変さと喜びと」

Academic Fantasistaとは？

本学の第一線の研究者が出張講義や大学訪問を通じて高校生に研究を伝える「Academic Fantasista（アカデミックファンタジスタ）」。今年度は新型コロナウイルス感染症対策を十分に行って，札幌近郊の高校等を対象に15名の教員が講義を実施する予定です。当事業は，内閣府が進める「国民との科学・技術対話」の一環として，北海道新聞社の協力のもと，平成24年度より実施しています。

Facebookでも講義レポート等を随時更新中です。こちらもぜひご覧ください。

@Hokkaido.univ.taiwa
https://www.facebook.com/Hokkaido.univ.taiwa

（総務企画部広報課）

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は，本学の創基130年を機に，教育研究の一層の充実を図り，これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため，平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に，研究支援，学部等支援など様々な事業を行っており，期限を付さない，息の長い募金活動をすることとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき，ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報 **基金累計額**（11月30日現在）	28,472件　5,286,511,472円

11月のご寄附状況

法人等23社，個人150名の方々から17,921,717円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに，同意をいただいている方々のご芳名，銘板の掲示，感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

医療法人社団　恵庭南病院，LSI札幌クリニック，医療法人社団　掛川神経科クリニック，医療法人社団　北浜胃腸科・内科，
医療法人社団　憲仁会　牧田病院，医療法人小坂病院，JA北海道厚生連　帯広厚生病院，渋江医院，自由人舎時館，
医療法人樹恵会石田病院，医療法人潤和会札幌ひばりが丘病院，株式会社道新デジタルメディア，ニューオータニイン札幌，
函館中央病院，医療法人東札幌病院，医療法人社団　ふるや内科，社会医療法人 母恋　天使病院，
医療法人社団　もなみ内科呼吸器科クリニック

寄附者ご芳名（個　人）

合川　正幸	青見　裕子	井口　光雄	石井　武雄	石井　哲夫	石井　寛	石丸　昌宏	石山　達雄
井門　英明	井上　勝一	井原　博	入澤　秀次	内山　喬一	縁記　和也	大高健一郎	大友　毅
大野　香奈	大原　正範	奥田　英信	小田原一史	門屋　健	金川　眞行	河合　新三	川上　義和
川倉　健治	河本　充司	菊地　利明	木村　和仁	木村　清延	工藤麻里子	国兼　浩嗣	黒澤　静香
後藤　泰	齊藤　晋	斉藤　久	齋藤文志郎	坂上　慎二	榊原　純	坂本　大介	佐藤カツヱ
佐藤　恒和	真田　万里	佐野　洋	三升畑元基	島田　茂樹	下沢　英二	白尾　誠二	神保　重孝
菅沼　宏之	菅原　新也	菅原　園枝	菅原　修孝	杉江　和男	鈴木　貴之	鈴木　弘子	鈴木　道子
須藤　和昌	瀬尾　淳一	瀬名波栄潤	髙橋　歩	高村　智司	高安　皓一	竹内　守	田中　亮吏
種井　善一	玉田　拓海	土家　琢磨	土屋　裕	常見　郁雄	寺澤　睦	戸田　純子	冨久日出男
豊田　威信	永井　達夫	中島　健夫	中塚　英俊	中村　和正	西尾　泰彦	西田　実弘	橋田　秀明
橋野　聡	花田　秀一	速水　邦彦	樋口　俊幸	平山　知子	福士　幸治	福永　悟郎	福原　敬
古谷健太郎	保坂　昌芳	前田　博	松田　健一	松田　直之	松橋　勉	松原　謙一	三品　孝行
三野　和宏	宮田　信幸	村上　泰一	村上　幸夫	村田　啓	村山　要介	山内　雅夫	山本　貴子
山森　聡	横井　成尚	横山　考	吉田　広志	吉成　久和	米田　穣		

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法　人）

医療法人社団　恵庭南病院，医療法人社団　掛川神経科クリニック，医療法人社団　憲仁会　牧田病院，
自由人舎時館，医療法人樹恵会石田病院

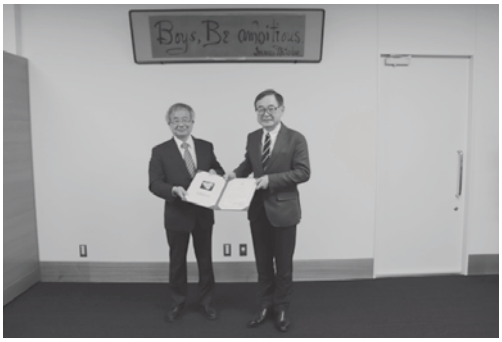
（個　人）

大友　　毅，川上　義和，木村　和仁，国兼　浩嗣，島田　茂樹，菅原　修孝，中村　和正，保坂　昌芳，松田　直之

感謝状の贈呈

月島食品工業株式会社　様（令和2年11月6日）

北海道大学東京同窓会　様（令和2年11月20日）



一般財団法人砂防・地すべり技術センター　様
（令和2年11月27日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。
https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし，ご記入の上，基金事務室に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて，基金事務室にご持参ください。
申込書は，ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか，基金事務室にもご用意していますので，基金事務室にお越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ
（https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ　基金事務室（事務局・学内電話　2017）

（総務企画部広報課）

令和２年度北海道大学鈴木章記念賞―自然科学実験― 被表彰者の決定

令和２年度北海道大学鈴木章記念賞―自然科学実験―の第１学期被表彰者4名を決定しました。

本表彰制度は，鈴木　章名誉教授のノーベル化学賞受賞を記念して平成23年に創設されたもので，今回を含め61名の学生に授与されています。賞の内容は，第１年次学生が履修する全学教育科目「自然科学実験」において，特に優秀な成績を修め，かつ本学の目指す全人教育の理念にふさわしい学生を表彰するものです。被表彰者には，高等教育推進機構長から賞状の授与及び記念品が贈呈されます。

なお，表彰式は第２学期の被表彰者と共に，令和３年３月に行う予定です。

【令和２年度第１学期被表彰者】

30組　　仲條智陽
32組　　越川　藍
19組　　北原　樹
27組　　南野友弥

（学務部学生支援課）

「日本留学海外拠点連携推進事業（サブサハラ・アフリカ）」主催のマダガスカル・エチオピア対象オンライン「日本留学フェア」を開催

本学アフリカルサカオフィスでは，９月～10月にかけて，マダガスカル共和国（以下，マダガスカル）とエチオピア連邦民主共和国（以下，エチオピア）を対象としたオンライン日本留学フェア（英名：Study in Japan Online Fair in Madagascar/Ethiopia 2020）をそれぞれ開催しました。本フェアは，サブサハラ・アフリカ地域の優秀な学生の日本留学誘致を目的に，文部科学省から受託している「日本留学海外拠点連携推進事業」の一環として実施されたものです。

新型コロナウイルス感染症の蔓延により，当初の予定であった日本留学フェアの現地開催をオンラインに切り替えて開催（エチオピア対象のフェアは京都大学が共催）しました。開催にあたっては，日本学術振興会に後援いただいたほか，両国の日本国大使館，JICA事務所に協力いただき，マダガスカル対象のフェアには日本から計37大学と１機関（※１），エチオピア対象のフェアには計41大学と１機関（※２）が参加しました。

今回のフェアは，週に１回のメールによる情報提供を計６回と，それと並行して，Facebookでの情報発信を６週間行い，情報発信２本立てのオンラインフェアとして実施しました。メールで情報を受け取った人数は760名（マダガスカル）／747名（エチオピア），Facebookに参加したのは652名（マダガスカル）／481名（エチオピア）でした。想定以上の方に参加いただき，本事業及び後援機関のウェブサイトやSNSだけでなく，現地の新聞やメディアサイトにおけるバナー広告を利用した広報活動を展開した効果が確認できました。

メールでの情報発信では，各週，「日本留学の概要」「帰国留学生の体験談」「卒業後の進路」「奨学金制度」「日本語学習」「日本留学実現に向けて」とテーマを設けて内容を組みました。Facebookでは，フェア期間中ほぼ連日，本邦各大学の３分程の広報動画や，上述のテーマに関連する動画をアフリカルサカオフィスが作成または関係者から頂戴し，投稿しました。同オフィスでは，対象国から本学に留学中の学生らに協力してもらい，日本留学や日本語学習に関するインタビュー動画を作成しました。加えて，コースやプログラムに関するPDF資料をクラウドに保管し，フェア期間中は随時，参加者が自由に閲覧できるようにしました。また，Facebookで各大学と参加者が直接やり取りできる場も提供し，さまざまな留学に関する質問に回答する態勢を作りました。そのほか発信内容は，後援機関や，マダガスカル及びエチオピア日本語教師会，在日留学生,帰国留学生，JICA海外協力隊の日本語教師，日本エチオピア友好協会，在日エチオピア人NPO団体アディアベバ・エチオピア協会など，多岐にわたる個人・機関にご協力いただきました。

本フェアは，本学アフリカルサカオフィス所長の奥村正裕獣医学研究院教授，留学コーディネーターを務めている日下部光特任准教授，伊藤正芳特任助教，大門　碧特任助教，角田さら麻特任助教，山本ひとみ事務補佐員，安高由香利特定専門職員により運営されました。

参加者に対する事後アンケートから，おおむね満足度の高いフェアであり，６週間という長期間にわたるフェアでしたが，毎日のように多くの方々がFacebookを確認していたことがわかりました。アフリカルサカオフィスでは，引き続き本事業を通して，優秀な学生に本学はじめ，日本の大学への留学を目指す機会を与え，支援していきます。

※１　北海道大学，会津大学，あしなが育英会，叡啓大学，愛媛大学，大阪府立大学，岡山大学，帯広畜産大学，北見工業大学，九州大学，京都大学，熊本大学，慶応義塾大学，神戸情報大学院大学，国際基督教大学，埼玉大学，芝浦工業大学，上智大学，筑波大学，デジタルハリウッド大学，東亜大学，東京外国語大学，東京工業大学，東京国際大学，東京農業大学，同志社大学，東北大学，東洋大学，名古屋大学，南山大学，新潟大学，兵庫県立大学，弘前大学，広島大学，山梨大学，横浜国立大学，立命館大学，立命館アジア太平洋大学（計37大学１機関，順不同）

※２　北海道大学，会津大学，あしなが育英会，叡啓大学，愛媛大学，大阪府立大学，岡山大学，帯広畜産大学，金沢大学，北見工業大学，九州大学，京都大学，慶応義塾大学，神戸情報大学院大学，国際大学，国際基督教大学，埼玉大学，芝浦工業大学，上智大学，筑波大学，デジタルハリウッド大学，東亜大学，東京医科歯科大学，東京外国語大学，東京工業大学，東京国際大学，東京農業大学，同志社大学，鳥取大学，東北大学，東洋大学，名古屋大学，南山大学，兵庫県立大学，弘前大学，広島大学，武蔵野大学，山梨大学，横浜国立大学，立命館大学，立命館アジア太平洋大学，早稲田大学（計41大学１機関，順不同）

（国際部国際連携課）

マダガスカル日本留学フェア用のFacebookの留学体験談

エチオピア日本留学フェア用のポスター（一部アムハラ語表記）

「日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア・CIS）」主催のオンライン日本留学フェアを開催

本学ロシアモスクワオフィスでは，文部科学省の委託事業「日本留学海外拠点連携推進事業」の一環として，2020年11月５日（木），６日（金）の２日間にわたって，オンライン日本留学フェアを開催しました。オンラインでの開催は本年２回目でしたが，第１回目のフェアは在ロシア日本国大使館と本学のみでの共催イベントであったため，日本から参加大学を募っての開催は今回初の試みでした。本フェアには，日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア・CIS）採択校である本学，筑波大学，新潟大学の３大学と在ロシア日本国大使館及び日本学生支援機構（JASSO）等がオンタイムで参加したほか，録画形式で16機関が参加を表明し，日本留学に関心のある登録者は，２日間で22機関のプレゼンテーションとロシア人学生による留学体験談を視聴することができました。

モスクワ時間午前９時（日本時間15時，ウラジオストク時間16時）から開始された留学フェア初日は，在ロシア日本国大使館の山本敏生公使の挨拶で幕を開け，JASSOによる日本留学概要，大使館広報文化部による国費奨学金制度についての説明，本学及び新潟大学のオンタイムプレゼンテーションに続き，参加９機関（国立・県立大学，日本語学校）の簡単な紹介と当該機関から提供されたプレゼンテーション動画の配信が行われました。翌６日には，JASSOによる日本留学概要説明と筑波大学のオンタイムプレゼンテーション・質疑応答に続き，参加８機関（私立大学）の紹介とプレゼンテーション動画が配信されました。大学紹介の後は，再びオンタイムでロシア人学生２名による日本留学体験発表があり，本学ロシアモスクワオフィス所長の加藤博文教授（アイヌ・先住民研究センター長）の閉会の挨拶をもって２日間のフェアは閉幕しました。

２日間で延べ約400人を動員したフェアは，学生（高校生，学部生及び大学院生）の参加が最も多く６割を占めました。また，社会人の参加者では教員や国際交流にかかる事務を所掌する部署の職員など，学生の留学先に関する情報収集を目的とする参加が多かったようです。地域別では，今回，極東地域をターゲットとして優先的に広報していたにもかかわらず，ヨーロッパロシア（60％）とウラル山脈以東のシベリア地域（15％），CIS諸国を中心とするロシア国外（５％）からの参加が80％を占め，極東地域は20％にとどまる結果となりました。これはホームページやSNSによる地域を問わないインターネット広報の特徴が現れた結果なのか，留学志望者がモスクワやサンクトペテルブルクのような富裕層が多いヨーロッパロシアに集中していることの現れなのか等，広報に関する分析を今後行っていきます。

フェア後に実施したアンケート結果からは，修士号取得や長期交換留学を望む声が多く，期間的には１～２年程度の留学を理想とする学生が多いようです。一方で留学後は日本での就職を望む声が圧倒的に多いこともあり，留学中の快適で充実したキャンパスライフの提供はもとより，日本留学をキャリアパスの設計としてどう提案することができるのか，本事業では，産官学の連携により，ロシアからの留学生誘致の増減を握る鍵となるこの課題に引き続き精一杯取り組んでいきます。

参加機関

北海道大学，秋田大学，岩手大学，金沢大学，北見工業大学，近畿大学，九州大学，在ロシア日本国大使館，札幌ランゲージセンター，信州大学，筑波大学，東海大学，東京外国語大学，東京国際大学，名古屋大学，南山大学，新潟大学，日本学生支援機構，福島県立医科大学，立命館アジア太平洋大学，早稲田大学，Study in Japan Guide（計18大学，４機関，順不同）

（国際部国際連携課）

ロシアモスクワオフィス加藤所長

ロシア人学生によるプレゼンテーション

HaRP事業オンライン会議「コロナ禍における日露国際教育交流の実践」を開催

11月20日（金）に本学とモスクワ国立大学との共催で，オンライン会議「コロナ禍における日露国際教育交流の実践」を開催しました。

本会議は，コロナ禍において，対面による国際教育交流が実施できないなか，各大学がどのように日露間の国際教育交流を実践しているか，事例を共有・分析することで今後の日露国際教育交流のあり方を展望することを目的として，本学と新潟大学が共同採択された文部科学省の平成29年度「大学の世界展開力強化事業～ロシア等との大学間交流形成支援～（タイプB：プラットフォーム構築プログラム）」事業（HaRP事業）の取組の一環として実施されました。なお，本会議は，日露大学協会，日露地域・姉妹都市交流年事業の行事としても認定されました。

本会議は，日露同時・逐次通訳の形で行われ，本学の横田　篤理事・副学長，文部科学省高等教育局吉岡　路専門官の挨拶の後，日本側大学からは，新潟大学の山川詩保子准教授と長崎大学の高村　昇教授による医学分野におけるロシアとのオンライン教育交流の取組について，また，近畿大学の松下　聖特任講師による「ものづくり」分野における同様の取組についての発表がありました。続いて，本学モスクワオフィス徳田由佳子特任講師が，オンライン教育推進に向けたロシア連邦科学高等教育省とロシアの大学の連携について紹介しました。ロシア側大学からは，モスクワ国立大学のAlexander Raevskiy准教授によるモスクワ国立大学のオンライン授業推進・入試実施の取組，北極圏国立農工大学Irina Dranaeva国際部長及びウラル連邦大学Yana Vysotskaya国際教育プログラム課長からオンラインによる国際教育プログラム実施事例の発表がありました。また，ノヴォシビルスク国立大学（人文学部東洋学科のElena Voytishek学科長と三森　優講師），高等経済学院（国際経済政治学部東洋講座のUliana Strizhak主任教授と地域研究科のVera Vishnyakova研究科長），サンクトペテルブルク国立映画テレビ大学（生涯教育学部のAleksey Zolotaryov副部長）から各大学の取組紹介が行われました。

その後の質疑応答・意見交換セッションでは，本学モスクワオフィス所長の加藤博文教授がモデレーターを務めました。会議を通して，オンライン教育実施により，様々な地域から学生が参加できることや，教員・講演者の遠隔参加が可能となったという利点が共有されるとともに，参加学生間のコミュニケーション不足の解消，実習・実験授業のオンライン化の工夫，単位を伴う形でのオンライン教育実施の実現，といった今後の課題が明確になり，引き続きオンライン会議等にて議論を行っていくことになりました。最後に，南山大学の星野　昌裕副学長，東京外国語大学の新井　滋教授，北東連邦大学のVladlen Kugunurov副学長，サンクトペテルブルク国立建築土木大学のSvetlana Petrova国際部長より発表内容に対するコメントをいただき閉会となりました。

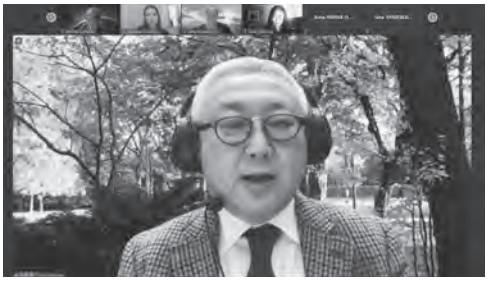
この会議には，日露の大学（日本側21大学，ロシア側30大学）から約130名が参加し，終了後には「有益な事例共有であった」「今後のオンライン教育実施の参考としたい」といった感想が寄せられました。

HaRP事業では，日露教育交流実践事例共有のプラットフォームとしての役割を担うべく，今後もこのような行事を実施する予定です。

（国際部国際連携課）

横田理事・副学長の挨拶

モスクワ国立大学Raevskiy准教授の発表


モデレーターの加藤教授

農学研究院食水土資源グローバルセンター（GCF）主催 国際シンポジウム「コロナ禍からのグリーン・リカバリー」の開催

農学研究院食水土資源グローバルセンター（GCF）では，国際シンポジウム「コロナ禍からのグリーン・リカバリー」を，11月４日（水）と５日（木）の両日にわたって開催しました。GCFはニュージーランド・リンカーン大学をはじめ多くの海外大学の教員とともに様々な食資源問題の解決に向けた研究と教育を推進していますが，このシンポジウムは世界的な感染症拡大を転機としてこれからの社会の仕組みや環境と資源のあり方について幅広く議論すべく，国際食資源学院，工学研究院及びロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点との共催，国際連携研究教育局（GI-CoRE）の後援で開催しました。

コロナウイルス感染拡大防止の観点から，フロンティア応用科学研究棟の鈴木章ホールをオンサイトの会場とし，これにオンライン・システムも取り入れたハイブリット形式で実施し，両日合わせて160名ほどの参加を得ました。

コロナ禍ではこれまで以上に貧困や格差が広がり，地球上の食資源問題は大きな試練に立たされています。世界では感染症の拡大で落ち込んだ景気の回復にあたり，単に経済政策を優先させるのではなく，むしろこれを契機に環境や社会政策として脱炭素に向けた気候変動対策をさらに推し進め，生態系や生物多様性の保全を通じて，気象災害や感染症などに対してもよりレジリエントな社会・経済モデルへと移行していこうという「グリーン・リカバリー」の考え方が徐々に広まっています。

本シンポジウムでは，コロナ禍での食資源問題の現状や最新の地球温暖化対策等の研究成果等について講演が行われ，ポスト・コロナに向けての食資源問題の解決策についての討議が交わされました。基調講演としてドイツ・ホッヘンハイム大学のIris Lewandowski教授による「生物資源利活用による生物圏に負荷をかけないバイオエコノミーへの転換による持続的な経済活動」と，ニュージーランド・リンカーン大学Timothy Clough教授による「放牧草地から放出される温室効果ガスの一つである亜酸化窒素の低減」が，また特別講演として国連世界食糧計画（WFP）下村理恵日本事務所副所長による「COVID-19パンデミックに対するWFPの対応」がなされました。さらにGCFや工学研究院の教員から，開発途上国を中心としたコロナ禍での食資源問題の現状とその解決策など，様々な角度での話題提供があり，参加者との間で熱心な討議が行われました。

また，恒例となった国際食資源学院の学生による研究発表も行われました。ポスター発表に代わり，今回は事前にビデオ収録したものを配信し，優秀な発表を行った学生には国際食資源学院長賞が授与されました。学生にとっては国際プレゼンテーションの機会になったとともに，今後の研究に向けた貴重なアドバイスを得ることができました。

（農学研究院食水土資源グローバルセンター・国際食資源学院）

ドイツ・ホッヘンハイム大学Iris Lewandowski 教授の基調講演

優秀な発表を行った国際食資源学院の学生表彰

令和２年度防災・日本再生シンポジウム「海溝型地震による広域複合災害の想定と効果的な減災対策・避難を考える」を開催

広域複合災害研究センター（Center for Natural Hazards Research, 略してCNHR）は，一般社団法人国立大学協会と共催で令和２年度防災・日本再生シンポジウム「海溝型地震による広域複合災害の想定と効果的な減災対策・避難を考える」を令和２年11月24日（火）にオンライン開催しました。近い将来発生が予想される千島海溝・日本海溝地震により，北海道沿岸部への津波の襲来，内陸部での大規模な土砂災害など，異種ハザードの連鎖複合的な発生が懸念されています。このシンポジウムでは，本学における防災に関わる全学的な組織であるCNHRが，日頃から蓄積している地震時，地震後の広域複合災害や減災に関する研究成果を発信したほか，北海道特有の寒冷地避難や感染症流行下の避難方法に関する討論会を開催し，広域複合災害や効果的な減災対策についての理解をより深めることを目的としました。シンポジウムには国や道，市町村の防災担当者，民間コンサルタントの技術者など約100人が参加しました。

当日は，寳金清博総長から開会のご挨拶をいただいたのち，「海溝型地震による広域複合災害の想定」をテーマとした一般講演５題，「効果的な減災対策・避難の検討」をテーマとした招待講演４題とパネルディスカッションを行い，最後にセンター長である山田　孝教授より閉会挨拶がありました。

一般講演では，谷岡勇市郎教授（理学研究院,CNHR兼務）から「海溝型地震と津波浸水想定」，岡田成幸特任教授（CNHR）から「海溝型地震による広域複合災害の自助・共助・公助の効果と札幌市の課題」，厚井高志准教授（CNHR）から「地震に起因する土砂移動と土砂災害」，桂　真也助教（農学研究院，CNHR兼務）から「積雪期の大規模地震による斜面災害」，石井吉春客員教授（公共政策大学院）から「地震による経済被害」と題してそれぞれ講演いただきました。招待講演では，橋本雄一教授（文学研究院，CNHR兼務）から「GISでみる積雪期の津波避難移動の課題」，釧路工業高等専門学校の草苅敏夫教授から「冬季における避難所運営～HUGの活用を通じて～」，日本赤十字北海道看護大学の根本昌宏教授から「感染症蔓延下の避難生活で想定される災害関連疾患」，NHK釧路放送局の頼富重人記者から「防災・減災にむけたNHKの取り組み」と題してそれぞれ講演いただきました。引き続いて行われたパネルディスカッションでは，副センター長の笠井美青准教授をコーディネーターとして，招待講演いただいた４名と北海道開発局の高橋丞二調整官をパネリストに迎えて活発な議論が交わされ，講演内容を踏まえた対策の現状や今後の方向性，関係機関の連携の重要性などについて確認されました。

CNHRでは，今後も複雑化，多様化する自然災害に焦点を当て，行政や一般市民を対象としたシンポジウムを毎年開催し，継続的にアウトリーチ活動を行っていきます。

（広域複合災害研究センター）

開会挨拶をする寳金総長

パネルディスカッションの様子

「2019年度卒論ポスター展示」を総合博物館で開催

本学の様々な学部の４年生が卒業研究を１枚のポスターにまとめ，総合博物館の来場者にわかりやすく発表して質疑応答する「卒論ポスター発表会」。2008年度から開催しているこの発表会は，４年生の研究の「今」をお伝えする良い機会として，学内外からご好評をいただいています。本学の全人教育の一環として総合博物館が学内のさまざまな部局にご協力いただき展開している「ミュージアムマイスター認定コース」の「社会体験型科目」に位置づけており，学生のコミュニケーション能力の涵養や異分野への関心の喚起，大学博物館への理解を深めることを目指しています。

第12回の発表会を2020年２月末に館内の「知の交差点」エリアで開催すべく，工学部と理学部，農学部，水産学部，文学部の４年生10名が中間発表会を重ねてポスターを改訂してリハーサルを行い，運営を担当する３名の学部生達も準備を進めていました。しかし，開催前夜に，コロナ感染症拡大を回避するための北海道知事からの外出自粛要請を受け，発表会は急遽中止となり，博物館も７月半ばまで休館することになりました。中止となったものの，学生達の考察レポートからは，発表会の準備のプロセスをそれぞれに意味づけたことがうかがえます。一部のレポートを当館ホームページで公開しています。
https://www.museum.hokudai.ac.jp/education/museummeister/cat/project/poster/

そして，博物館が新型コロナウイルス感染症対策のもと再開された後，来場者にこのポスターを展示し，有志による解説を実施する機会を模索していたところ，発表会の審査を毎年ご担当いただいている工学研究院の内田　努准教授から強い後押しをいただき，10月24日（土）から11月８日（月）にポスター展示を開催することができました。当初予定していた10件の発表のうち，６件のポスターを展示し，週末には大学院に進学した高田健太郎さん（理学院）と松村大寿さん（文学院）が，ポスターの前で来場者に説明し，質疑応答を行いました。審査員を務める予定であった学内外の関係者やミュージアムマイスターだけでなく，今年度卒論ポスター発表会に参加する４年生，教職員，そして市民や他大学学生，留学生，高校生などが訪れて，ポスターへのコメントを寄せて下さいました。

来場者に説明した高田さんと松村さんは，多くの質問や新たな視点からのご意見をいただいたことや，自身の研究に関心をもっていただいたことに感激したとのことです。そして大学院で研究を進展させていることへの励ましの言葉もいただき，充実した時間を過ごせたと語っています。

2021年２月27日（土）・28日（日）には，2020年度の卒論ポスター発表会を開催します。多くの方のご来場をお待ちしています。

（理学院・理学研究院・理学部）

ポスター展示会場

高校生に解説する松村さん
（現・文学院修士1年生）

さまざまな年代の来場者に説明する高田さん
（現・理学院修士1年生）

◆2019年度「卒論ポスター発表会」発表者　　＊ポスター展示に対応

＊佐々木悠貴（工学部）　「北海道における公立学校廃校施設の活用と周辺地域の関係」
＊高田健太郎（理学部）　「むかわ竜（カムイサウルス・ジャポニクス）の骨組織学的研究」
＊酒井　涼香（水産学部）「環境DNAによるブラウントラウト資源量の評価」
＊松村　大寿（文学部）　「『雨に降られた』は英語で何というのか?―迷惑・不利益を表す前置詞 on に関する研究―」
　近藤　　誠（理学部）　「冬季北海道の降雪粒子を対象とした気象モデルの検証と降雪粒子の雲微物理特性」
　福田　祐生（理学部）　「北海道で発見された恐竜の爪化石について」
＊的場　竜毅（農学部）　「ミドリヒョウモンメス交尾器に見られる突起状構造とその役割」
＊齊藤　優里（理学部）　「むかわ町穂別の蝦夷層群函淵層から産出した*Kamuysaurus japonicus*の産状について」
　丹羽皓太郎（水産学部）「水産加工業における外国人労働力の現状と課題 ―オホーツク海ホタテ漁業に注目して―」
　野田　暁布（工学部）　「都市空間構造からみた小樽市における空き家の分布傾向と活用可能性」

◆2019年度「卒論ポスター発表会」運営担当学生：

長田幸子（水産学部２年）・上村麻里恵（文学部２年）・小林瑞季（理学部３年）

情報基盤センター・サイバーセキュリティセンターが「セキュリティ・ミニキャンプ in 北海道」を開催

11月７日（土）及び８日（日），情報基盤センター南館で，情報基盤センター・サイバーセキュリティセンター等主催による「セキュリティ・ミニキャンプ in 北海道」を開催しました。

本イベントは，次代を担う世界に通用する若年層の情報セキュリティ人材を発掘・育成するため，一般社団法人LOCAL，一般社団法人セキュリティ・キャンプ協議会，独立行政法人情報処理推進機構と共に主催し，産業界及び教育界から結集した講師から短期集中で学ぶ機会を提供するもので，年１回の全国大会の他，年10数カ所で開催される地方大会からなります。

今回は，「情報倫理とセキュリティ」，「CTF形式で学ぶCプログラムの脆弱性」，「クライアント＆サーバアプリケーションセキュリティ入門」といった実践的なプログラムを11名が受講しました。

なお，新型コロナウイルス感染症拡大防止策として，参加人数の絞り込み，事前の感染防止対策周知及び「北海道コロナ通知システム」への登録徹底，入館時の検温・消毒，一部オンライン会議システムの併用等を行いました。

本学では平成29年度から情報基盤センターサイバーセキュリティ研究部門の南　弘征教授（サイバーセキュリティセンター長，情報環境推進本部情報セキュリティ対策室長）及び飯田勝吉准教授（サイバーセキュリティセンター員，情報環境推進本部情報セキュリティ対策室副室長）が実施に関わり，本学のみならず地域のサイバーセキュリティ啓発活動の推進に貢献しています。

（情報基盤センター）

開会に先立ち挨拶する南サイバーセキュリティセンター長

受講生一同

北海道大学 学芸員リカレント教育プログラム 企画展「DISTANCE ＃学びと距離の物語」関連事業「ミュージアムグッズサミット」第1～3回を開催

10月６日（火）から10月25日（日）まで，総合博物館企画展示室を会場として，企画展「DISTANCE　＃学びと距離の物語」を開催しました（『北大時報』2020年11月号で紹介）。この企画展は，平成30（2018）年度から３ヶ年の助成をいただいている文化庁「大学における文化芸術推進事業」の最終年度の成果の１つです。

新型コロナウィルスが流行する以前は，企画展開催にあわせて，展示解説，本学をフィールドとしたツアー，ミュージアムグッズの開発，ミュージアムグッズについて語るセミナーなど，さまざまなイベントを計画していましたが，コロナ禍での実施は難しいと判断し，ほとんどの関連事業を断念しました。しかし，インターネットを使って全国に大勢いるミュージアムグッズファン，その企画・制作に係わる関係者，ミュージアムショップでそれを販売している人びとが集うセミナーは，コロナ禍でも可能ではないかと考え，開催可能な形を検討し直しました。本プログラム受講生でミュージアムグッズ愛好家の大澤夏美さんにセミナーのファシリテータをお願いし，運営スタッフも受講生に担当してもらいました。最終的に企画展が始まる前と開催期間中と閉幕後の計３回，毎回19時から21時の２時間，ファシリテータとゲストとのトークを中心に，全国のミュージアムグッズ関係者が自由にZoomで参加できる方式を採用しました。実は，大澤さんは３年前のプログラム開始当初から，このセミナーを「ミュージアムグッズサミット」と呼んで開催を熱望していましたので，そのままこの名称を用いました。

第１回は９月28日（月）に，ミュージアム専門誌『ミュゼ』編集長の山下治子さんをゲストに迎え，「ミュージアムショップ×博物館のディスタンス：博物館との関係性を問う」をテーマに展開しました。山下さんは，グッズの現物をzoomで見せながら，日本のミュージアムショップの歴史をお話しくださいました。その中で1977年に開館した国立民族学博物館（大阪府）では，「売店」を初めて「ミュージアムショップ」と位置づけ，その後のショップのあり方を変えたとの指摘に，参加者からチャットルームに驚きのコメントが寄せられました。

第２回は10月15日（木）に，青森県八戸市に本社がある株式会社金入 取締役社長の金入健雄さんにゲストとしてご参加いただき，「ミュージアムショップ×地域のディスタンス：リスペクトってどんな形？」をテーマに進めました。ゲストが語った「ショップづくりのキーワードは，職人さんとのチームとして一体感をつくることができるか。小売りで，消費で地域を支えることができるか。どんなものを後世に残し伝えるのか，という当事者意識を持つことが重要」との一言が印象的でした。

最終回の第３回は企画展閉幕後の11月６日（金）に，認定NPO法人　大阪自然史センター（大阪市立自然史博物館ショップ経営）事務局長の川上和歌子さんと小樽芸術村でミュージアムショップを担当している受講生の佐藤いず帆さんをゲストに迎え，「ミュージアムショップ×来館者のディスタンス：コロナ禍で見えてきた？」をテーマに展開しました。佐藤さんから小樽芸術館でのショップ経営の状況と課題を報告いただいたのち，川上さんからコロナの影響で対面型イベントがすべて中止になったとき，支えてくれたのが同館の来館者であったという報告がありました。NPOの日頃からの活動やファン作りがあったため，ネット通販やファンドレイジングでショップを支えてくれたことは，「ショップも博物館の一つであるという強い意識のあらわれ」との発言がありました。

この３回で，のべ200名以上の方が全国からZoomで参加してくださいました。70％以上が道外からの参加ということで，このテーマが広く全国的に関心が持たれていることを実感しました。最終回のエンディングでは「サミット」らしく，ファシリテータから「ミュージアムグッズやショップについて語り合える場づくりに取り組み，ミュージアムグッズやショップ，ひいては博物館が社会においてどうあるべきかという議論がより活発になり，これらの重要性が広く認識されるように今後も活動を進めたい」という宣言を発して，終了しました。

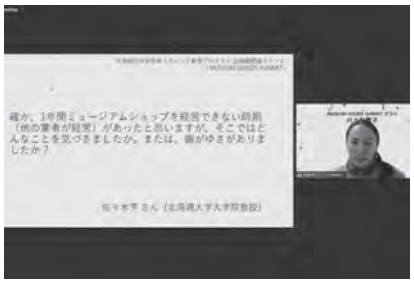
（文学研究院）

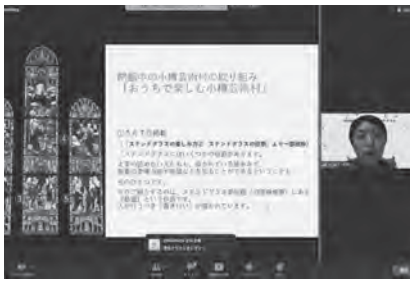
ミュージアムグッズサミット（第1～3回）のファシリテータを務めた，受講生でミュージアムグッズ愛好家の大澤さん

お気に入りのミュージアムグッズを紹介する，第1回ゲストの山下さん

「東北愛」に満ちていた，第2回ゲストの金入さん（画面右）

運営スタッフは，Zoomの入室承認やチャットルームに寄せられた質問やコメントの対応に大忙し


運営スタッフが整理した質問に答える，第3回ゲストの川上さん


勤務する小樽芸術村の活動を紹介する，受講生で第3回ゲストの佐藤さん

ファシリテータの大澤さんが，最終回の最後に「ミュージアムグッズサミット宣言」を発しました

理学研究院で消防訓練を実施

理学研究院では，令和２年11月10日（火）に消防訓練を実施しました。

当日は，折からの寒気に加え前日の積雪が残る肌寒い天候の中，12時10分に，本館３階N-311A室から出火した想定で，堀口健雄理学研究院長を隊長とする事務部で構成された自衛消防隊による，通報連絡，非常放送，初期消火，避難誘導，救護等の総合的な訓練を，教職員約30名が参加し実施されました。

訓練終了後には，堀口研究院長から，コロナ禍にもかかわらず訓練に参集頂いた参加者及び協力者への慰労の辞と，日頃からの防災に対する意識を啓蒙する挨拶があり，今後も常に安全確認を行っていただきたいとの要請がありました。

（理学院・理学研究院・理学部）

通報連絡班による火災発生現場とのやりとりの様子

消火班による初期消火（消火栓からの放水）の模様

第18回　脳科学研究教育センター シンポジウム「感覚と運動の神経基盤の進化　～非哺乳類脳から学ぶ計算原理～」を開催

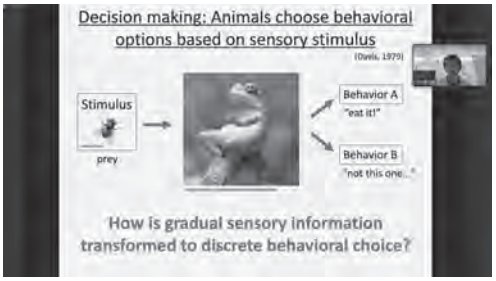
11月13日（金）に，第18回脳科学研究教育センターシンポジウム「感覚と運動の神経基盤の進化」（世話人代表：理学研究院 小川宏人教授）が開催されました。脳科学研究教育センターには医学，薬学，理学，工学，保健科学，文学，教育学など学内12部局の約30名が基幹教員として参加しており，脳科学研究の推進と，大学院講義，実習，合宿研修などを柱とした教育活動を行っています（https://www.hokudai.ac.jp/recbs/）。また，毎年，学内外の脳科学研究者が参加するシンポジウムを開催しています。今回のシンポジウムでは，「～非哺乳類脳から学ぶ計算原理～」というテーマで，これまでのセンターシンポジウムではなじみのなかった無脊椎動物や魚類を対象とした脳神経科学研究の第一線で活躍されている研究者５名に講演をお願いしました。今年は新型コロナウィルスの感染拡大防止のため，会場での開催を断念し，代わりにインターネット会議システムを利用したオンライン開催となりました。

渡辺雅彦脳科学研究教育センター長（医学研究院）による挨拶の後，講演がはじまりました。木村幸太郎教授とウェン・チェンタオ研究員（名古屋市立大学大学院理学研究科 生命情報系）による講演「線虫C.　エレガンスの情報処理～分子レベルから全脳神経活動へ」では，前半に匂い刺激に対する忌避行動における線虫の「知覚と運動意思決定」のメカニズムについて，また後半では機械学習を用いた全神経細胞活動の自動追跡と神経回路構造推定技術について紹介されました。塩崎博史研究員（ハワード・ヒューズ医学研究所 ジャネリア・リサーチ・キャンパス）による講演「ショウジョウバエの中枢神経回路における視覚・記憶・運動情報の符号化」では，バーチャル・リアリティ（VR）空間を飛翔するショウジョウバエの視覚記憶に関する神経活動や，渡米してから開始したハエの種特異的な歌生成に関する神経回路に関する研究結果が紹介されました。設樂久志研究員（理学研究院生物科学部門，学振特別研究員）による講演「コオロギ気流感覚系における刺激強度と方向情報の読み出し／符号化メカニズム」では，コオロギの気流応答性巨大介在ニューロンの応答特性と刺激情報符号化，さらに気流誘導性逃避行動における機能推定について紹介されました。久保　郁准教授（国立遺伝学研究所　新分野創造センター）による講演「ゼブラフィッシュにおける錯視反応とその視覚情報処理回路」では，モデル動物であるゼブラフィッシュを対象として，目の錯覚（錯視）の一つとして知られる「運動残効（motion aftereffect）」と神経活動の記録・操作を組み合わせて，動きの方向の情報処理メカニズムを解析する研究が紹介されました。最後に，南　雅文副センター長（薬学研究院）の挨拶があり活況のうちに閉会となりました。

はじめてのオンライン開催で，予想外のハプニングもありましたが，オンライン上でも活発な質疑応答があり，大変盛りあがりました。また，塩崎先生には時差にも関わらず米国からご講演いただきました。これもオンライン・シンポジウムならではのことです。今回のシンポジウムが参加者の皆様の興味を満たすとともに，学内外の脳研究のさらなる発展につながっていくことを願います。

（脳科学研究教育センター）

塩崎先生の講演の様子



木村先生の講演の様子

設樂先生の講演の様子

久保先生の講演の様子

薬学研究院・薬学部で「実験動物慰霊祭」を挙行

薬学研究院・薬学部では，11月６日（金）に本研究院並びに本学部の教育と研究のために供された実験動物の慰霊祭を臨床薬学講義室にて執り行いました。今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から式典の規模を縮小し，教員，学生など約40名の関係者が参列しました。

慰霊祭では，動物実験委員会委員長の小川美香子教授より実験に供された動物に追悼の辞が述べられ，次いで参列者全員による黙祷及び献花が行われました。生命科学及び薬学の教育や研究の発展のために多大な貢献をした動物の霊への供養がしめやかに執り行われました。

（薬学研究院・薬学部）

追悼の辞を述べる小川委員長

献花する参列者

工学系部局で自衛消防訓練等を実施

工学系部局では，10月22日（木）に自衛消防訓練を実施しました。

訓練にあたっては，新型コロナウイルス感染防止対策のため，図上訓練形式とし，自衛消防隊のみの実施となりました。

本消防隊は，50名ほどの工学系事務部職員及び学務部国際交流課職員で構成されることから，３密の回避のため，工学系団地内の防災センター，会議室等に職員を分散，着席の際に人と人との間隔を空けるよう座席を指定し，訓練前から室内の換気を行うとともに各自マスク及び手袋の着用を義務づけるなどの感染防止の徹底を図りました。

訓練は，自衛消防隊長である大道元工学系事務部長の指示のもと自衛消防隊各班がトランシーバーを用いて，地震による火災の発生を想定し，初期消火，安全防護，負傷者救護，避難誘導などの自衛消防活動状況を報告するという内容で行われました。

本訓練の一部として，圧縮空気を利用した模擬消火器を導入し，室内で消火器訓練を行い，消火器の操作方法など実際の消火活動に近い体感を得ることができました。

なお，訓練が図上訓練形式であったことから，避難誘導や救護活動など，現場での活動を想像して訓練する難しさが感じられました。

訓練終了後，隊長及び副隊長から講評があり，訓練を災害対応の一つのひな型とすること，日頃から消火設備の場所等の確認が必要なこと，非常時は臨機応変な対応が人命救助及び二次災害の防止につながることなどの感想が述べられました。終了後に実施したアンケートの結果を踏まえ，今後の訓練のあり方を含め，工夫を凝らした訓練を実施していく予定です。

（工学院・工学研究院・工学部，
情報科学院・情報科学研究院，
量子集積エレクトロニクス研究センター）

自衛消防隊に指示する大道事務部長

会議室での連絡の様子

３密回避や換気等を講じた会場の様子

圧縮空気を利用した模擬消火器訓練

工学系部局で安全衛生管理講演会を開催

工学院・工学研究院・工学部，情報科学院・情報科学研究院，量子集積エレクトロニクス研究センターでは，「工学部安全の日※」関連行事として，毎年学内外から講師を招いて，安全衛生管理に係るテーマで講演会を開催しています。

本年度は，11月12日（木）にオンライン会議形式により，半田化学プラント安全研究所（元　三井化学株式会社　技術研修センター長）半田　安氏を講師に迎え，「化学工場で起こる事故や災害に思う～生産現場の事故事例から学ぶ，働く前に大学で身につけておかなければならないこと～」と題し，化学工場で起こった事故とその教訓や在学中に学んでおいて欲しいことについて紹介がありました。

本講演会には，19名の学生と33名の教職員が参加し，参加者からは有益であった旨の感想が多く寄せられ，有意義な講演会となりました。

※工学部安全の日

平成４年８月10日に工学部で発生した重大事故に鑑み，本学部における安全管理・安全教育体制の整備と安全意識の向上に資するために，制定された日。

（工学院・工学研究院・工学部，
情報科学院・情報科学研究院，
量子集積エレクトロニクス研究センター）

講演会ポスター

講演会の様子

人獣共通感染症リサーチセンターが，第8回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議をオンラインで開催

2014年４月以来，総長直轄の組織として運営されてきた国際連携研究教育局（GI-CoRE）人獣共通感染症グローバルステーションの設置期間が満了し，2020年４月１日に人獣共通感染症リサーチセンター国際協働ユニット（GI-CoRE協力拠点）が，その活動を引き継ぐことになりました。当センターは，メルボルン大学，アイルランド国立大学ダブリン校，アブドラ国王科学技術大学の世界トップクラスの研究者と「人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム」を形成し，国際連携研究と後身の育成教育を強力に推進しています。

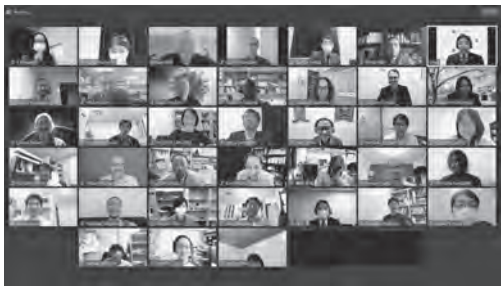
人獣共通感染症リサーチセンター主催，獣医学研究院と国際連携研究教育局（GI-CoRE）共催で，10月21日（水）・23日（金）に第８回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議（The 8th Meeting of the Consortium for the Control of Zoonoses）を開催しました。コロナ禍により,海外連携大学の研究者を招聘し，本学で開催することが難しくなったため，オンライン会議システムZoomで実施する初の試みとなりました。

21日（水）は，当センター長の鈴木定彦教授による開会挨拶の後に国際協働ユニット（GI-CoRE協力拠点）の拠点長である澤　洋文教授より，国際協働ユニットを構成するワクチン・創薬研究開発グループ，病原体探索研究グループと病原体ゲノム研究グループの研究と教育の実施体制について説明がありました。その後，ワクチン・創薬研究開発グループのメルボルン大学のDavid C. Jackson教授，Lorena E. Brown教授，Katherine Kedzierska教授と当センターの新開大史准教授が，研究進捗状況と今後の研究計画の発表をし，メルボルン大学のMarios Koutsakos研究員，アイルランド国立大学ダブリン校のGabriel Gonzalez研究員，当センターの佐々木道仁講師と大野円実助教が，新型コロナウイルス感染症研究の取り組みと自国の感染状況等について報告しました。

23日（金）は，病原体探索研究グループのアイルランド国立大学ダブリン校のWilliam W. Hall教授，Steven V. Gordon教授，当センターの澤教授，病原体ゲノム研究グループのメルボルン大学のElizabeth L. Hartland教授，アブドラ国王科学技術大学のArnab Pain教授と当センターの山岸潤也准教授が，研究進捗状況と今後の研究計画を発表しました。また，当センターの大森亮介准教授，松野啓太講師と古田芳一講師から，新たな国際連携研究計画について提案がありました。

本会議には，人獣共通感染症リサーチセンターと獣医学研究院の教員と博士研究員，海外連携大学のGI-CoRE連携教員，ベトナム国立衛生疫学研究所の連携研究者を含め，２日間で延べ90名が参加して活発な質疑応答が行われました。本会議を通じて，４大学間でさらなる国際連携を強化し，人獣共通感染症の克服に向け，病原体の伝播経路の解明，病原性発現機序の解明，感染症の予防・診断・治療法の開発を持続的に推進することを再確認する機会となり，盛会のうちに終了しました。

（人獣共通感染症リサーチセンター）



オンライン会議の参加者

会議運営会場

函館キャンパスで『秋のキャンパス一斉清掃』を実施

11月12日（木）に，函館キャンパスにおいて『秋のキャンパス一斉清掃』を実施しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため，マスクを着用し，密にならないように人と人との距離を確保しながらの実施となりましたが，当日は晴天にも恵まれ，函館キャンパス構内とその周辺の清掃を行うことができ，大変きれいになりました。

参加人数は，学生・教職員をあわせて約200名となり，たくさんの方に参加いただきました。

収集されたごみ等は，一般ごみ，産業廃棄物（金属やプラスチックの混合物），木の枝等を合わせて約1.5㎥となりました。

清掃終了後には，災害備蓄用として保管している賞味期限間近の飲料水を参加していただいた学生及び教職員に対して配布し，食糧備蓄の必要性を啓発しました。

これからも環境美化活動を推進し，きれいなキャンパスを目指します。

（水産科学研究院・水産科学院・水産学部）

ゴミ袋配布の様子

清掃活動を行う学生

協力し合いながらの清掃作業

諸会議の開催状況

役員会（令和２年11月９日）
協議事項・未来戦略本部の設置について
　　・諸規則の制定及び一部改正について
報告事項・会計検査院会計実地検査の実施について
　　・令和２年人事院給与勧告について

教育研究評議会（令和２年11月16日）
議　　題・教員の懲戒について

教育研究評議会（令和２年11月18日）
議　　題・未来戦略本部の設置について
　　・諸規則の制定及び一部改正について
報告事項・大学間交流協定の新規締結について
　　・寄附講座等の更新について
　　・最高責任者の任命について

経営協議会（令和２年11月19日）
議　　題・令和２年人事院給与勧告について

役員会（令和２年11月24日）
議　　案・未来戦略本部の設置について
　　・諸規則の制定及び一部改正について
　　・役員給与規程の一部改正について
報告事項・令和２事業年度中間決算について
　　・令和２年度病院収支見込（中間決算時点）について

※規程の制定，改廃については，「学内規程」欄に掲載しています。

学内規程

国立大学法人北海道大学ハラスメント防止規程の一部を改正する規程

（令和２年11月10日海大達第149号）

ハラスメント相談体制を強化するため，ハラスメント相談室の組織を見直すこと並びにハラスメント対策室長及びハラスメント相談室長の権限を明確化することに伴い，所要の改正を行うとともに，併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学アドミッションセンター規程の一部を改正する規程

（令和２年11月11日海大達第150号）

個別学力検査等の試験場において，「令和３年度大学入学者選抜に係る新型コロナウイルス感染症に対応した試験実施のガイドライン」に基づく適切な衛生管理体制を構築するため，例年の試験場に加えて新たな試験場を設けることに伴い，所要の改正を行うとともに，併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学入学者選抜委員会規程の一部を改正する規程

（令和２年11月11日海大達第151号）

入学者選抜委員会の委員の構成を見直すことに伴い，所要の改正を行うとともに，併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

（令和２年11月24日海大達第152号）

国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程

（令和２年11月24日海大達第154号）

本学が取り組むべき喫緊の課題に柔軟かつ機動的に対応し，戦略的な大学運営の推進を図るため，本学に運営組織として未来戦略本部を設置することに伴い，所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学未来戦略本部規程

（令和２年11月24日海大達第153号）

未来戦略本部を設置することに伴い，本部の組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学役員給与規程の一部を改正する規程

（令和２年12月1日海大達第155号）

国立大学法人法第35条の規定により準用される独立行政法人通則法第50条の２第３項の規定を踏まえ，役員の給与について，国家公務員の給与，民間企業の役員の報酬等，本学の業務の実績その他の事情を考慮し，国民の理解が得られる適正なものとするため，期末手当の支給割合の見直しを行うことに伴い，所要の改正を行ったものです。

表敬訪問

海外

年月日	来　訪　者	来 訪 目 的
2.11.24	駐日オランダ王国大使館 Peter VAN DER VLIET 大使	両国の交流に関する懇談
2.11.25	駐日ハイチ共和国大使館 Helph Monod HONORAT 大使	両国の交流に関する懇談

Peter VAN DER VLIET 駐日オランダ王国大使（中央左）

Helph Monod HONORAT 駐日ハイチ共和国大使（中央左）

（国際部国際連携課）

人事

令和２年12月１日付発令

新　職　名（発令事項）	氏　　名	旧　職　名（現職名）
【教授】 大学院医学研究院教授	矢　部　一　郎	大学院医学研究院准教授

新任教授紹介

令和2年12月1日付

医学研究院教授に

矢部（やべ）　一郎（いちろう）　氏

神経病態学分野
神経内科学教室

生年月日
昭和42年１月１日

最終学歴
北海道大学大学院医学研究科博士課程修了（平成14年３月）
博士（医学）（北海道大学）

専門分野
神経内科学，臨床遺伝学

資料

令和２年度外国人留学生数

【部局別】

学部等

令和２年11月１日現在

部局名	国費留学生		外国政府派遣留学生		私費留学生		合計
	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	
文学部	1（1）	1				55（38）	57（39）
教育学部						17（14）	17（14）
経済学部		1			3（1）	21（16）	25（17）
理学部	1				28（11）		29（11）
医学部医学科	1						1
薬学部	1				1（1）	1	3（1）
工学部	30（3）		3（1）		16（3）		49（7）
農学部					5（5）	1（1）	6（6）
水産学部					3（2）	4（1）	7（3）
総合教育部	15（4）				41（17）		56（21）
現代日本学プログラム課程	4（2）				36（23）		40（25）
総計	53（10）	2	3（1）		133（63）	99（70）	290（144）

大学院等

部局名	国費留学生				外国政府派遣留学生				私費留学生				合計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	
文学院	2（2）		7（5）						88（64）		23（17）	1（1）	121（89）
文学研究院												4（3）	4（3）
文学研究科			4（3）				2		1（1）		31（17）		38（21）
法学研究科			1（1）	1（1）					40（25）		6（1）	19（11）	67（39）
情報科学院	2		5（2）				2（1）		24（5）		26（7）		59（15）
情報科学研究院				2（1）								15（4）	17（5）
情報科学研究科			3						2		22（9）		27（9）
薬学研究院				1（1）									1（1）
水産科学院			5（1）				1		17（12）		16（3）	2	41（16）
水産科学研究院				1（1）								1	2（1）
環境科学院	9（2）		10（5）				4（2）		83（38）		61（27）	7（3）	174（77）
地球環境科学研究院				2								22（8）	24（8）
理学院	1		9（5）						27（9）		28（5）	1	66（19）
理学研究院				1								2	3
農学院	9（7）		14（7）				2（1）		29（16）		47（22）	2（1）	103（54）
農学研究院												13（8）	13（8）
生命科学院	2（1）		14（6）				3（2）		40（20）		33（8）		92（37）
先端生命科学研究院				1（1）									1（1）
教育学院	1（1）		1				1（1）		38（27）		17（13）		58（42）
教育学研究院												1（1）	1（1）
国際広報メディア・観光学院	1		5（4）						77（56）		20（13）		103（73）
メディア・コミュニケーション研究院				1（1）								26（17）	27（18）
保健科学院			1（1）						21（12）		6（5）		28（18）
保健科学研究院				1（1）								14（9）	15（10）
工学院	14（2）		17（4）		1（1）		13（5）		101（29）		71（22）	2	219（63）
工学研究院				2（1）								33（9）	35（10）
総合化学院	3（2）		5（3）				4（2）		35（12）		64（22）		111（41）
経済学院	5（2）		3（1）						72（47）	6（6）	14（8）		100（64）
経済学研究院												1（1）	1（1）
経済学研究科											1		1
医学院	1		6（5）				2（2）		6（3）		28（16）		43（26）
医学研究院												2（1）	2（1）
医学研究科											2（2）		2（2）
歯学院			1（1）								21（12）		22（13）
歯学研究院												5（3）	5（3）
歯学研究科											1（1）		1（1）
獣医学院			15（4）								10（5）		25（9）
獣医学研究院												1	1
獣医学研究科											3（2）		3（2）
医理工学院			1						2		4		7
国際感染症学院			18（11）								11（4）		29（15）
国際食資源学院	2（1）		1（1）						6（3）		4（4）		13（9）
公共政策学教育部										23（12）			23（12）
公共政策学連携研究部				1								6（3）	7（3）
人獣共通感染症リサーチセンター												2	2
量子集積エレクトロニクス研究センター												2	2
アイヌ先住民研究センター				1									1
低温科学研究所												1（1）	1（1）
電子科学研究所												2	2
遺伝子病制御研究所												2（1）	2（1）
触媒科学研究所												2	2
スラブ・ユーラシア研究センター				1（1）								1（1）	2（2）
情報基盤センター												3（2）	3（2）
北方生物圏フィールド科学センター				1（1）								6（3）	7（4）
高等教育推進機構												5（2）	5（2）
総計	52（20）	0	146（70）	17（10）	1（1）	0	34（16）	0	709（379）	29（18）	570（245）	206（93）	1,764（852）

日本語研修生等

高等教育推進機構	日本語・日本文化研修生		日本語研修生		合計
	国費	私費	国費	私費	
	18（11）	8（6）	7（3）	17（12）	50（32）

外国人留学生総数（「留学」以外の在留資格の者を含む）

学部留学生数	大学院留学生			研究生等	日本語研修生 日本語・日本文化研修生	留学生総数	外国人学生（「留学」以外）	留学生及び外国人学生総計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程					
189（74）	762（400）	29（18）	750（331）	324（173）	50（32）	2,104（1,028）	51（27）	2,155（1,055）

＊（　　）内は女子を内数で示す
＊修士課程には博士前期課程を，博士課程には博士後期課程を含む
＊研究生等には特別研究学生及び特別聴講学生を含む

（学務部国際交流課）

令和２年度国別外国人留学生数

令和２年11月１日現在

地域	国名（地域名）	国費留学生 学部 学士	国費留学生 学部 研究生	国費留学生 日本語・日本文化研修生	国費留学生 日本語研修生	国費留学生 大学院 修士	国費留学生 大学院 専門職学位	国費留学生 大学院 博士	国費留学生 大学院 研究生	国費留学生 小計	外国政府派遣留学生 学部 学士	外国政府派遣留学生 大学院 修士	外国政府派遣留学生 大学院 専門職学位	外国政府派遣留学生 大学院 博士	外国政府派遣留学生 小計	私費留学生 学部 学士	私費留学生 学部 研究生	私費留学生 学部 特別聴講学生	私費留学生 日本語・日本文化研修生	私費留学生 日本語研修生	私費留学生 大学院 修士	私費留学生 大学院 専門職学位	私費留学生 大学院 博士	私費留学生 大学院 研究生	私費留学生 大学院 特別研究学生	私費留学生 大学院 特別聴講学生	私費留学生 小計	総計
アジア	インド					3(2)		7(3)		10(5)						4(3)					8		18(8)				30(11)	40(16)
	インドネシア	1(1)		1	1(1)	2(1)		8(3)	1(1)	14(7)						1				2(2)	7(2)		15(4)	1(1)			26(9)	40(16)
	カンボジア	2				1(1)		1(1)		4(2)											1		4(1)				5(1)	9(3)
	シンガポール	1						1(1)		2(1)						3(1)					2						5(1)	7(2)
	スリランカ			3(3)		1		3(1)		7(4)													8(5)				8(5)	15(9)
	タイ	1(1)		1(1)		4(1)		7(5)	1(1)	14(9)						8(4)				3(2)	5(1)		19(9)	1			36(16)	50(25)
	大韓民国	33(2)		1		1		1(1)	1(1)	37(4)						13(3)	1(1)	1(1)			22(8)		37(10)	2(1)			76(24)	113(28)
	台湾															8(6)	1(1)		1(1)		12(6)		25(11)	2(1)			49(26)	49(26)
	中華人民共和国			2(2)				24(9)	5(2)	31(13)		1(1)		34(16)	35(17)	42(16)	95(66)		4(4)	1(1)	607(344)	28(17)	309(147)	172(81)	5(1)	2(1)	1,265(678)	1,331(708)
	ネパール							2		2													1(1)				1(1)	3(1)
	パキスタン					1		1		2						2(1)											2(1)	4(1)
	バングラデシュ					2(1)		14(4)	2	18(5)											5(4)		21(7)				36(11)	44(16)
	フィリピン	1			1	1(1)		7(2)		10(3)						1					3(2)		9(6)				13(8)	23(11)
	ブータン				1					1																		1
	ブルネイ					2		1(1)		3(1)																		3(1)
	ベトナム	1(1)				1		6(2)		8(3)						2(1)	1(1)			1	1(1)	1(1)	17(4)				23(8)	31(11)
	マレーシア	1				1(1)		5(3)		7(4)	3(1)				3(1)	2(1)					3		9(5)	1(1)			15(7)	25(12)
	ミャンマー			2(2)		2(2)		6(5)		10(9)						1(1)					3		3(2)				7(3)	17(12)
	モンゴル		1					4(4)	1(1)	6(5)						1(1)				1(1)	4(2)		9(6)				15(10)	21(15)
	小計(19か国・地域)	41(5)	1	10(8)	3(1)	22(10)		98(45)	11(6)	186(75)	3(1)	1(1)		34(16)	38(18)	88(38)	98(69)	1(1)	5(5)	8(6)	683(370)	29(18)	504(226)	179(85)	5(1)	2(1)	1,602(820)	1,826(913)
中東	アフガニスタン							1(1)		1(1)																		1(1)
	イラン	1(1)								1(1)													2				2	3(1)
	クウェート							1		1																		1
	サウジアラビア																						4				4	4
	トルコ							1(1)		1(1)						1							2(2)				3(2)	4(3)
	ヨルダン																						1				1	1
	小計(6か国)	1(1)						3(2)		4(3)						1							9(2)				10(2)	14(5)
アフリカ	アルジェリア																				1(1)						1(1)	1(1)
	アンゴラ					1				1																		1
	ウガンダ	1								1																		1
	エジプト					2(2)		2(2)		4(4)													3(2)				3(2)	7(6)
	エチオピア																						1(1)	1			2(1)	2(1)
	エリトリア																						1(1)				1(1)	1(1)
	ガーナ							1		1																		1
	カーボヴェルデ					1		1		2																		2
	ガンビア																							1			1	1
	ギニア					1				1																		1
	ケニア	1(1)						1(1)		2(2)										1	1(1)						2(1)	4(3)
	コンゴ民主共和国					1				1													2	1			3	4
	ザンビア					1		7(3)	1(1)	9(4)											2		8(1)	1			11(1)	20(5)
	ジンバブエ																				1			1			2	2
	スーダン							1(1)		1(1)											1						1	2(1)
	タンザニア							2(1)		2(1)														1(1)			1(1)	3(2)
	チュニジア					1(1)		1(1)		2(2)																		2(2)
	ナイジェリア	1				3(1)		3		7(1)											2		12(2)	1			15(2)	22(3)
	ナミビア															1(1)											1(1)	1(1)
	ブルキナファソ							1		1																		1
	ベナン																							1(1)			1(1)	1(1)
	ボツワナ				1(1)					1(1)																		1(1)
	マダガスカル							2(1)		2(1)													1				1	3(1)
	マラウイ							2		2											1		2(1)	1			4(1)	6(1)
	モーリシャス																						1(1)				1(1)	1(1)
	モロッコ															1							1(1)				2(1)	2(1)
	南アフリカ					1				1											2(2)						2(2)	3(2)
	小計(27か国)	3(1)			1(1)	12(4)		24(10)	1(1)	41(17)						2(1)				1	11(4)		32(10)	9(2)			55(17)	96(34)
大洋州	オーストラリア					1(1)		1(1)	1(1)	3(3)						1(1)									1(1)		2(2)	5(5)
	トンガ					1(1)				1(1)																		1(1)
	ニュージーランド															1											1	1
	パプアニューギニア					2(1)				2(1)																		2(1)
	フィジー				1				1(1)	2(1)											1		1				2	4(1)
	小計(5か国)				1	4(3)		1(1)	2(2)	8(6)						2(1)					1		1		1(1)		5(2)	13(8)
北米	アメリカ合衆国	4(2)				1		3(2)		8(4)						8(5)				4(2)	2(1)		4(1)				18(9)	26(13)
	カナダ	1								1						4(3)					2		1				7(3)	8(3)
	小計(2か国)	5(2)				1		3(2)		9(4)						12(8)				4(2)	4(1)		5(1)				25(12)	34(16)
中南米	アルゼンチン				1(1)	1				2(1)																		2(1)
	ウルグアイ		1							1																		1
	グアテマラ				1	2		1(1)		4(1)																		4(1)
	コスタリカ																			1(1)							1(1)	1(1)
	コロンビア																						1				1	1
	ジャマイカ							1		1																		1
	ニカラグア					1				1																		1
	ハイチ					1				1																		1
	バルバドス					1(1)				1(1)						1(1)											1(1)	2(2)
	ブラジル	1		1		2				4						1							1				2	6
	ベネズエラ	1(1)								1(1)																		1(1)
	ペルー							1		1																		1
	ボリビア							1(1)		1(1)																		1(1)
	ホンジュラス								1	1																		1
	小計(14か国)	2(1)	1	1	2(1)	8(1)		4(2)	1	19(5)						2(1)				1(1)			2				5(2)	24(7)
ヨーロッパ	アゼルバイジャン							1(1)		1(1)													1	1			2	3(1)
	イタリア							1(1)		1(1)						1(1)							1				2(1)	3(2)
	英国(イギリス)							1		1						4			1	1(1)	1(1)						7(2)	8(2)
	ウクライナ			1						1																		1
	ウズベキスタン					2				2																		2
	オランダ															2(2)											2(2)	2(2)
	カザフスタン	1		1						2																		2
	北マケドニア															1											1	1
	キルギス																				4(1)		1				5(1)	5(1)
	ジョージア																							1			1	1
	スイス																		1(1)								1(1)	1(1)
	スウェーデン															1(1)											1(1)	1(1)
	スペイン							1		1						1							2(1)				3(1)	4(1)
	スロベニア															1											1	1
	セルビア			1(1)				1		2(1)						1											1	3(1)
	チェコ							1		1																		1
	デンマーク															1(1)							1				2(1)	2(1)
	ドイツ															3(2)			1	1(1)	1				1		7(3)	7(3)
	トルクメニスタン					1				1																		1
	ノルウェー																						2				2	2
	ハンガリー							1(1)		1(1)						1(1)							2(1)				3(2)	4(3)
	フィンランド			1						1						5(4)				1(1)	2(1)		1(1)				9(7)	10(7)
	フランス															2(1)					2(1)		1				5(2)	5(2)
	ブルガリア															1											1	1
	ベラルーシ			1						1													1(1)				1(1)	2(1)
	ポーランド							1	1(1)	2(1)																		2(1)
	ポルトガル							1(1)		1(1)																		1(1)
	ラトビア							1(1)		1(1)																		1(1)
	リトアニア			1(1)		0				1(1)																		1(1)
	ロシア			1(1)		2(2)		3(3)	1	7(6)						1(1)							4(2)	1(1)	1(1)	5(1)	12(6)	19(12)
	小計(30か国)	1		7(3)		5(2)		13(8)	2(1)	28(14)						26(14)			3(1)	3(3)	10(4)		18(7)	3(1)	2(1)	5(1)	70(32)	98(46)
合計(99カ国1地域)		53(10)	2	18(11)	7(3)	52(20)	0	146(70)	17(10)	295(124)	3(1)	1(1)	0	34(16)	38(18)	133(63)	98(69)	1(1)	8(6)	17(12)	709(379)	29(18)	570(245)	191(88)	8(3)	7(2)	1,770(885)	2,104(1,028)

※（　）内は女子の数で内数

（学務部国際交流課）

北大時報掲載記事事項別一覧（令和2年掲載分）

表　　紙

1月号　・第22回ソウル大学校-北海道大学ジョイントシンポジウムを開催
2月号　・Academic Fantasista　11月は７名の研究者が高校生に向けた講義を実施
3月号　・北大時報平成元年３月号（No.420）表紙
4月号　・北大春景色
5月号　・紫綬褒章受章の圦本尚義教授と同位体顕微鏡
6月号　・広報用写真素材「バーチャル背景画像」
7月号　・北大夏景色
8月号　・竹谷監事と北海道大学教職員との意見交換「監事と語る会」を開催
9月号　・卒業生動画「北大人群像～フロンティア精神の体現者たち～」第一弾を公開
10月号　・総長就任挨拶
11月号　・北海道大学病院が網走市と連携協定を締結
12月号　・農学研究院食水土資源グローバルセンター（GCF）主催 国際シンポジウム「コロナ禍からのグリーン・リカバリー」の開催

裏　表　紙

1月号　・北の鉄道風景㉒　鉄馬駆ける
2月号　・北の鉄道風景㉓　丹頂が飛来する駅
3月号　・北の鉄道風景㉔　山線を往くローカル列車
4月号　・キャンパス風景①　正門（北８条西５丁目）
5月号　・キャンパス風景②　総合博物館（北10条西８丁目）
6月号　・キャンパス風景③　中央ローン（北８条西６丁目付近）
7月号　・キャンパス風景④　百年記念会館から見る景色（北９条西６丁目付近）
8月号　・キャンパス風景⑤　平成ポプラ並木（北16条西13丁目付近）
9月号　・キャンパス風景⑥　佐藤昌介像（北８条西５丁目）
10月号　・キャンパス風景⑦　正門付近のエゾリス（北８条西５丁目）
11月号　・キャンパス風景⑧　イチョウ並木（北13条西５～７丁目）
12月号　・キャンパス風景⑨　冬の訪れ（北８条西６丁目付近）

総 長 告 辞 等

4月号　・総長職務代理からのメッセージ（学士学位授与式，入学式）
　　・共同利用施設等（核磁気共鳴装置研究室）指定解除告示
10月号　・総長就任挨拶

全 学 ニ ュ ー ス

1月号　・大学入試センター試験の実施
　　・第22回ソウル大学校-北海道大学ジョイントシンポジウムを開催
　　・分科会１　International Workshop on New Frontiers in Convergence Science and Technology for Artificial Intelligence　複合領域科学及び人工知能のニューフロンティアに関する国際ワークショップ
　　・分科会２　Teacher Education Forum: Preparing Thinker Teachers and 2019 SNU-HU-NTNU-KU Joint Symposium for Science Education　教師教育フォーラム：思索する教師をつくる&2019年理科教育のためのSNU-HU-NTNU-KUジョイントシンポジウム
　　・分科会３　SNU-HU-MU Joint Class: Environmental Chemicals and Human Health　SNU-HU-MU共同講義：環境化学物質と人びとの健康
　　・分科会５　Toward Understanding of Changing Environment in East Asia　東アジア域の変わりゆく地球環境の理解に向けて
　　・分科会６　Dentistry in the Aging Society　高齢化社会における歯科（歯学）
　　・分科会８　The 8th HU-SNU Joint Symposium on Materials Science and Engineering　第８回材料科学工学に関する合同シンポジウム
　　・分科会９　The Role of Nuclear Engineering toward a Sustainable Future　持続可能な未来への原子力工学の役割
　　・各省庁・メディアが選ぶ注目研究2019に，本学から３名の研究者が選出
　　・本学初の南極地域観測隊長，氷と海の関係解明に挑戦
　　・Academic Fantasista 10月は８名の研究者が札幌市内の高校で講義を実施
　　・北大フロンティア基金
　　・リスクアセスメント研修を開催

・新渡戸学（フェローゼミ）全体発表会を開催
・2019年度冬季国際交流会～広がる・つながり，Connecting with others～を開催
・大学の世界展開力強化事業合同連携会議・ラウンドテーブル「サステイナビリティを探求する大学院教育とは何か」を開催
・第２回ICReDD国際シンポジウムを開催
・「北海道大学新技術説明会」を開催
・「北海道大学起業家育成基金」を創設
・産学連携推進本部 本間特任教授が「国際認定・技術移転プロフェッショナル：RTTP」に認定
・国際連携研究教育局（GI-CoRE）ビッグデータ・サイバーセキュリティグローバルステーション（GSB）が「ビッグデータ・サイバーセキュリティ・IoTに関する国際シンポジウム」を開催
・ベトナム社会主義共和国ハノイ市にてASEANハノイオフィス開所式及び北海道大学交流デー等のイベントを開催
・ガーナ共和国の首都アクラで「日本留学フェア」を開催
・ヘルシンキにて日本学術振興会フィンランド同窓会10周年・日本フィンランド国交樹立100周年記念セミナーを開催
・日本留学海外拠点連携推進事業主催　日本留学フェア（於ロシア連邦・ウラジオストク）を開催
・在日豪大使館コート大使，クーパー公使の表敬訪問及びグリーン在札豪領事への北海道大学アンバサダー委嘱状交付式を開催
・中学生対象「AIとデータサイエンスを知って親しむ講義×体感イベント」開催
・小中高生向け科学体験イベント「さっぽろサイエンスフェスタ in 北大」を開催
・博士人材と企業の情報交換会　第41回「赤い糸会&緑の会」を開催
・外国人博士人材と企業の情報交換会CAREER LINK MEETUP（英語版赤い糸会）を開催
・博士課程学生の海外企業訪問 USA Site Visit in RTPを開催
・工学研究院及びサステイナブルキャンパスマネジメント本部の取組が「サステイナブルキャンパス賞2019」を受賞
・令和元年度第２回サステイナブルキャンパス推進員会議を開催

2月号
・北海道大学一般入試の志願状況
・AO入試合格者の発表
・国際総合入試合格者の発表
・Academic Fantasista　11月は７名の研究者が高校生にむけて講義を実施
・北大フロンティア基金
・第７回北海道大学オープンファシリティシンポジウムを開催
・第７回北海道大学オープンファシリティシンポジウム特別企画SD研修を学術交流会館にて開催
・第２回日露産官学連携実務者会議を開催

3月号
・令和元年度「北海道大学総長表彰」表彰式を挙行
・北海道大学一般入試（前期日程）及び私費外国人留学生入試の実施・一般入試（後期日程）の試験中止と合格者の発表
・札幌地方石油業協同組合と「災害時における石油類燃料の供給等に関する協定」を締結
・研究者のためのスキルアップセミナー⑬「伝わる情報発信術～研究プレスリリースとビジュアルデザイン～」を開催
・Academic Fantasista　12月は３名の研究者が高校生に向けた講義を実施
・北大フロンティア基金
・国立大学法人等情報化連絡協議会を開催
・新渡戸カレッジ基礎・オナーズプログラム大学院教育コース2019年度第２回メンターフォーラムを開催
・令和元年 北大ペンハロー賞授与式を挙行
・高等教育推進機構日本語研修コース修了式（2019年10月入学者）
・産学連携推進本部産学協働マネージャーが「DEMOLAファシリテーター」に認定
・「ハルトプライズ」に学ぶ－世界のSDGs起業家育成プログラムを開催
・令和元年度事務職員海外派遣研修受講者による報告会を開催
・農学研究院に古河電気工業株式会社との産業創出講座「アグリメディカル講座」を開設
・「2020年北海道大学インドネシア同窓会懇談会」及び「インドネシア交流デー」を開催
・Ph.Discoverキックオフイベント「博士と産業界の橋渡しのために，大学と企業に求められる役割を考える」を開催
・博士人材と企業の情報交換会　第42回「赤い糸会&緑の会」を開催

4月号
・令和元年度学位記授与
・総長職務代理からのメッセージ
・祝辞
・学部・研究科等別の卒業者数，修了者数及び論文博士授与者数
・令和２年度入学
・総長職務代理からのメッセージ
・本学永年勤続者表彰に101氏
・名誉教授に40氏
・令和元年度「北海道大学職員表彰」表彰式を挙行
・令和２年度北海道大学の予算
・北大フロンティア基金

・北海道大学アンバサダー・パートナー活動報告（令和元年度）
・Academic Fantasista　1月は2名の研究者が高校生に向けた講義を実施
・「オリジナルエコバッグ」を新入生全員に配布
・新渡戸カレッジプログラムの修了について
・大学入試センター試験業務に携わる教職員のための未就学児一時保育を実施
・研究交流発表会「超異分野meetup」を開催

5月号
・圦本尚義理学研究院教授に紫綬褒章
・春の叙勲に本学から5氏
・「A-STEP説明会」を開催しました
・北大フロンティア基金
・Academic Fantasista　2月は3名の研究者が高校生に向けた講義を実施
・高等教育研修センターにて研修会を開催

6月号
・令和2年度新渡戸カレッジに473名が入校
・藤女子大学・北海道情報大学と教育連携協定を締結
・SCSK北海道株式会社との「IT系連携授業」を実施
・「北海道大学広報用写真素材」バーチャル背景画像の提供を開始
・北大フロンティア基金

7月号
・北大フロンティア基金

8月号
・笠原総長代行と長谷川理事がウポポイを訪問
・北海道大学アンバサダー・パートナーウェビナー2020を開催
・北大フロンティア基金
・竹谷監事と北海道大学教職員との意見交換会「監事と語る会」を開催
・令和2年度出入国管理制度説明会をオンライン会議システムで実施
・おしょろ丸が教育関係共同利用拠点に再認定

9月号
・次期総長予定者として保健科学研究院特任教授の寳金清博氏を選出
・卒業生動画「北大人群像～フロンティア精神の体現者たち～」第一弾を公開
・北大フロンティア基金
・山下裕久氏に紺綬褒章が授与
・令和2年度北海道大学レーン記念賞受賞者を決定
・令和2年度北海道大学新渡戸賞受賞者を決定
・令和2年度北海道大学宮澤記念賞受賞者を決定
・産学・地域協働推進機構　樋泉客員教授が放送批評懇談会　第11回志賀信夫賞を受賞
・竹本内閣府特命大臣と青山文部科学政務官が北海道大学を視察－世界に伍するスタートアップ・エコシステム拠点－
・青山文部科学大臣政務官が化学反応創成研究拠点（ICReDD）を視察
・札幌キャンパスで特定外来生物防除を実施

10月号
・ホームカミングデー2020年の中止及び配布物のお知らせ
・北大フロンティア基金
・「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業に，15名の研究者が参加
・インフォメーションセンター　エルムの森が装い新たに再開館
・インフォメーションセンター内「カフェdeごはん」の内覧会を開催
・令和2年度インターンシップを実施
・学生の緊急時の対応に係る研修会をWebexオンライン会議システムで実施
・令和2年度北海道大学入試説明会をオンラインにて実施
・鮮度保持技術の活用による歩留まり向上を目指すフードロス削減コンソーシアムを設立

11月号
・秋の叙勲に本学から6氏
・衛生管理者連絡会を開催
・Academic Fantasista　10月は6名の研究者が北海道札幌南高等学校で出張講義を実施
・高等教育研修センターにて研修会を開催
・令和2年度オープンキャンパスをオンラインにて開催
・令和2年度北海道大学進学相談会をオンラインにて開催
・高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」を開催
・令和2年度第1回サステイナブルキャンパス推進員会議を開催
・モーリシャス共和国対象のオンライン「日本留学フェア」を開催
・南アフリカ共和国対象のオンライン「日本留学フェア」を開催
・北海道大学主催でHaRP事業の日露交流関連会議3件をオンライン開催
・博士人材と企業の情報交換会　第43回「赤い糸会（赤い糸ONLINE）」を開催
・「次世代研究者シンポジウム2020」を開催
・北大フロンティア基金

12月号
・令和2年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏

・大学入学共通テスト本学一般選抜個別学力検査等実施体制等の決定
・総合型選抜の実施
・国際総合入試合格者の発表
・帰国子女入試合格者の発表
・パブリックスピーキング研修を開催
・記者懇談会の開催
・Academic Fantasista　11月は川堀真人特任准教授（北海道大学病院）が札幌北斗高等学校で出張講義を実施
・北大フロンティア基金
・令和２年度北海道大学鈴木章記念賞―自然科学実験― 被表彰者の決定
・「日本留学海外拠点連携推進事業（サブサハラ・アフリカ）」主催のマダガスカル・エチオピア対象のオンライン「日本留学フェア」を開催
・「日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア・CIS）」主催のオンライン日本留学フェアを開催
・HaRP事業オンライン会議「コロナ禍における日露国際教育交流の実践」を開催
・農学研究院食水土資源グローバルセンター（GCF）主催　国際シンポジウム「コロナ禍からのグリーン・リカバリー」の開催
・令和２年度防災・日本再生シンポジウム「海溝型地震による広域複合災害の想定と効果的な減災対策・避難を考える」を開催

部局ニュース

1月号
・公共政策大学院が金融庁グローバル金融連携センター研究員との交流会を実施
・経済学部・経済学院インターナショナル・サポート・デスク（ISD）説明会を開催
・生命科学院がアクティブラーニング形式の「Research Ethics Workshop for IGP students（研究倫理ワークショップ）」を開催
・生命科学院が「第７回生命科学国際シンポジウム」を開催
・「第15回北海道大学－南京大学ジョイントシンポジウム－NIMS」を開催
・先端生命科学研究院の研究グループが，報道関係者向け研究成果発表会を実施～アルツハイマー病発症予防にこんにゃくセラミドが有効であることを発見～
・歯学研究院で「動物供養祭」を挙行
・令和元年度　薬学部成績優秀賞授与式を挙行
・第２回東アジアイノベーション促進フォーラム（East Asia Innovation Accelerator Forum）を開催
・工学系部局で「第２回こころの健康セミナー」を開催
・北海道大学病院で「第61回ふれあいコンサート　クリスマスの夕べ」を開催
・環境科学院でインターナショナルパーティを開催
・新専攻設置記念公開シンポジウム「観光とメディアの融合が開く新たな可能性」を開催
・低温科学研究所が基礎生物学研究所と連携協定を締結
・2019年度北極域課題解決人材育成講座 「北極域科学概論」開催報告
・第８回北極域オープンセミナーを開催
・スラブ・ユーラシア研究センター2019年度冬期国際シンポジウム「帝政ロシアの地方再訪：文学的想像力と地政学」を開催
・中谷宇吉郎揮毫の書画を大学文書館で受贈

2月号
・令和元年度薬学研究院FD講演会を開催
・情報基盤センターが「サイエンスレクチャー2019～プログラミングで何できる？～」を開催
・法学部に「法曹コース」を設置
・湖南大学法学院一行が法学研究科・法学部に来訪
・工学系部局で教育・キャリア企画室主催の講演会を開催
・令和元年度第２回農学研究院FD研修会を開催
・農学院・農学部とシンガポール国立大学との「Joint Summer Programme in Japan and Singapore」～ Agriculture as a domestic culture & industry in a new globalization era ～を開催
・農学院・農学研究院・農学部において「留学生新年会」を開催
・地球環境科学研究院・環境科学院でFD研修会を開催
・済州大学と「観光とメディア」をテーマにした共同セミナーを開催

3月号
・総合化学院創設10周年記念事業を開催
・北海道大学学芸員リカレント教育プログラム（学芸リカプロ）公開成果報告会「ミライ・ミュージアム・ミートアップ」及び公開イベント「動物園・水族館に学ぶ！ミュージアムの可能性」を開催
・教育学研究院が北海道教育委員会と連携協定を締結
・教育学研究院が湧別町と連携協定を締結
・公共政策大学院が教育課程連携協議会を実施
・経済学部及び会計専門職大学院で特別講演会を開催
・先端生命科学研究院でFDSD研修会「総会2019」を開催

・歯学研究院長がウメオ大学歯学部を訪問
・令和２年度薬学実務実習開始セレモニーを挙行
・工学系部局で転倒防止活動への取組みを実施
・厳冬期避難所展開・宿泊演習2020に出席
・水産科学院・水産学部主催「業界研究セミナー」を開催
・国際広報メディア・観光学院がシェフィールド大学との教育・研究交流「TLLPワークショップ」を開催
・「本は脳を育てる」図書展示を開催
・研修出張報告会「オープンサイエンス・研究データ関係」を開催
・令和元年度北海道大学北方生物圏フィールド科学センター耕地圏・水圏ステーション技術職員専門研修を開催
・北海道大学病院の医療スタッフがHBCラジオで健康情報を発信！

4月号
・法科大学院が教育課程連携協議会を開催
・生命科学院　博士後期課程科目「少人数討論型育成プログラム」（北大帝人ブレーンストーミングワークショップ）を実施
・環境健康科学研究教育センターが令和元年度後期「社会と健康」ディプロマ授与を挙行
・地球環境科学研究院でFD研修会を開催
・北方生物圏フィールド科学センターで「公開水産科学実習」を開催

5月号
・物質科学リーディングプログラム（ALP）２期生の修了式挙行

6月号
・環境科学事務部窓口に飛沫感染対策実施
・緊急座談会「ポストコロナ時代の東アジア」，オンラインで開催
・医学部創立100周年記念事業「ヒポクラテスの木」植樹式を挙行

7月号
・環境科学院でオンラインによる学生募集説明会を実施
・理学部におけるレベル２感染症拡大防止対応と筆記試験実施について

8月号
・水産科学研究院と北海道奥尻高等学校が高大連携協定を締結
・バランスドオーシャン事業による『LASBOS Moodle』の構築と学内公開
・２年次学部学科移行生のコミュニケーション環境整備（オンライン交流・歓迎会）について
・附属図書館（本館・北図書館）における感染拡大防止への取り組み
・北方生物圏フィールド科学センター研究林産の木材を銘木市に出品
・スラブ・ユーラシア研究センター国際シンポジウム「北東アジア～歴史と未来，発展と摩擦」開催

9月号
・北海道大学納骨堂慰霊式を挙行
・医師・歯科医師のための臨床解剖実習室（CAST-Lab.）を開設
・環境科学院で10月入学入試及び４月入学秋季入試をオンラインで実施

10月号
・北海道大学広域複合災害研究センターと国土交通省北海道開発局とが連携協力に関する協定を締結
・低温科学研究所が新潟大学災害・復興科学研究所と連携協定を締結
・バランスドオーシャン事業による『LASBOS Moodle』の一般公開
・フードバンク道南協議会と「食品の譲渡等に係る合意書」を締結
・動物慰霊式を挙行
・北方生物圏フィールド科学センター苫小牧研究林で業務体験セミナーを開催
・国際食資源学院でオンラインによる大学院入試を実施
・イナ・レーペル駐日ドイツ連邦共和国特命全権大使が来学
・在学・在職関係資料（1960～2000年代）を大学文書館で受贈

11月号
・北海道大学病院が網走市と連携協定を締結
・北海道大学学芸員リカレント教育プログラム　文学研究院×北海道大学総合博物館企画展「DISTANCE ＃学びと距離の物語」
・教育学部でESDキャンパスアジア・パシフィックプログラム2020（夏季北大プログラム）を開催
・理学部で「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～生命科学の最先端（糖鎖のヒミツをのぞいてみよう）」を開催　理学部生物科学科（高分子機能学）
・動物慰霊式を挙行
・医学研究院医理工学グローバルセンターが第４回医理工学院学生研究発表会／第４回企業との交流会をオンラインで開催
・医学部・歯学部合同慰霊式を挙行
・獣医学研究院及び人獣共通感染症リサーチセンターで動物慰霊式を挙行
・附属図書館で「防災訓練」の実施
・静内研究牧場の短角牛肉が「ふるさと納税返礼品」に登録

12月号
・「2019年度卒論ポスター展示」を総合博物館で開催
・情報基盤センター・サイバーセキュリティセンターが「セキュリティ・ミニキャンプ in 北海道」を開催
・北海道大学 学芸員リカレント教育プログラム 企画展「DISTANCE ＃学びと距離の物語」関連事業「ミュージアムグッズサミット」第１～３回を開催
・理学研究院で消防訓練を実施
・第18回脳科学研究教育センターシンポジウム「感覚と運動の神経基盤の進化～非哺乳類脳から学ぶ計算原理～」の開催
・薬学研究院・薬学部で「実験動物慰霊祭」を挙行

・工学系部局で自衛消防訓練等を実施
・工学系部局で安全衛生管理講演会を開催
・人獣共通感染症リサーチセンターが，第８回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議をオンラインで開催
・函館キャンパスで『秋のキャンパス一斉清掃』を実施

お　知　ら　せ

2月号　・過半数代表候補者の決定
4月号　・令和２年度人間ドック・特定健康診査の実施について
5月号　・北大フロンティア基金　経済的困窮学生への支援のお願いについて
7月号　・令和元（平成31）年度北海道大学外国人留学生後援会の決算
8月号　・「北海道大学の役職員の給与等の水準（令和元年度）」の概要について
・被扶養者の要件の確認

寄　　稿　　等

3月号　・定年を迎えるにあたって
8月号　・監事退任にあたって

博士学位記授与

1月号　・課程博士18人，論文博士２人
4月号　・課程博士313人，論文博士13人
7月号　・課程博士32人，論文博士２人
10月号　・課程博士108人，論文博士６人

諸会議の開催状況

（令和元年12月～令和２年11月分掲載）

学　内　規　程

1月号　・国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
2月号　・国立大学法人北海道大学創成研究機構化学反応創成研究拠点規程の一部を改正する規程
3月号　・国立大学法人北海道大学個人情報管理規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学における独立行政法人等非識別加工情報の提供等に関する規程の一部を改正する規程
・北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程
・北海道大学国際連携研究教育局規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程
・北海道大学新渡戸カレッジ運営会議規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則
・北海道大学電子科学研究所規程の一部を改正する規程
・北海道大学学生相談総合センター運営委員会規程の一部を改正する規程
4月号　・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員就業規則及び国立大学法人北海道大学短時間勤務職員就業規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学職員労働時間，休憩，休日及び休暇規程並びに国立大学法人北海道大学船員労働時間，休日及び休暇規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園臨時職員就業規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学役員給与規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員給与規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学職員兼業規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学職員就業規則等の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則
・北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学総長選考会議規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学情報環境推進本部規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学アドミッションセンター規程の一部を改正する規程
・北海道大学入学者選抜委員会規程の一部を改正する規程

・国立大学法人北海道大学人材育成本部規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学大学力強化推進本部規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学産学・地域協働推進機構規程の一部を改正する規程
・北海道大学教務委員会規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学情報セキュリティ委員会規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程
・北海道大学通則の一部を改正する規則
・北海道大学大学院通則の一部を改正する規則
・北海道大学の第１年次の学生に係る履修，修学等に関する規程の一部を改正する規程
・北海道大学科目等履修生規程の一部を改正する規程
・北海道大学における履修証明プログラムに関する規程の一部を改正する規程
・北海道大学現代日本学プログラム課程規程の一部を改正する規程
・北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程
・北海道大学全学教育科目規程の一部を改正する規程
・北海道大学インテグレイテッドサイエンスプログラム規程の一部を改正する規程
・北海道大学大学院共通授業科目規程の一部を改正する規程
・北海道大学病的材料検査に関する規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学における北大発ベンチャー称号授与規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学におけるライセンス等の対価として取得する株式等の取扱いに関する規程
・国立大学法人北海道大学職員就業規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学船員就業規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員就業規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園臨時職員就業規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学短時間勤務職員就業規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学嘱託職員就業規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学利益相反マネジメント規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学職員労働時間，休憩，休日及び休暇規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学日時給職員の特別の有給休暇に関する規程を廃止する規程
・国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学職員退職手当規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学放射線障害予防規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学個人情報管理委員会規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学情報セキュリティ対策規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学予算決算及び経理規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学コーポレートカード利用規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学北大フロンティア基金規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学宿舎貸与規程の一部を改正する規程
・北海道大学における共用スペース使用規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学病院借上宿舎規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学保育所ともに規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学保育所ともに運営委員会規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学ナノテクノロジープラットフォーム事業による設備利用規程の一部を改正する規程
・北海道大学文学部規程の一部を改正する規程
・北海道大学教育学部規程の一部を改正する規程
・北海道大学法学部規程の一部を改正する規程
・北海道大学経済学部規程の一部を改正する規程
・北海道大学理学部規程の一部を改正する規程
・北海道大学医学部規程の一部を改正する規程
・北海道大学歯学部規程の一部を改正する規程
・北海道大学薬学部規程の一部を改正する規程
・北海道大学工学部規程の一部を改正する規程
・北海道大学農学部規程の一部を改正する規程
・北海道大学獣医学部規程の一部を改正する規程

・北海道大学水産学部規程の一部を改正する規程
・北海道大学大学院環境科学院規程の一部を改正する規程
・北海道大学大学院保健科学院規程の一部を改正する規程
・北海道大学大学院工学院規程の一部を改正する規程
・北海道大学大学院総合化学院規程の一部を改正する規程
・北海道大学大学院医学院規程の一部を改正する規程
・北海道大学大学院医理工学院規程の一部を改正する規程
・北海道大学大学院国際食資源学院規程の一部を改正する規程
・北海道大学大学院公共政策学教育部規程の一部を改正する規程
・北海道大学大学院保健科学研究院規程の一部を改正する規程
・北海道大学大学院工学研究院規程の一部を改正する規程
・北海道大学大学院獣医学研究院附属動物病院規程の一部を改正する規程
・北海道大学遺伝子病制御研究所規程の一部を改正する規程
・北海道大学触媒科学研究所運営委員会規程の一部を改正する規程
・北海道大学アイヌ・先住民研究センター規程の一部を改正する規程
・北海道大学アイヌ・先住民研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程
・北海道大学人間知・脳・AI研究教育センター規程の一部を改正する規程
・北海道大学国際連携研究教育局規程の一部を改正する規程

6月号
・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員就業規則等の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学職員労働時間，休憩，休日及び休暇規程並びに国立大学法人北海道大学船員労働時間，休日及び休暇規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学外国人研究者及び外国人留学生借上宿舎等規程の一部を改正する規程
・北海道大学電子科学研究所規程の一部を改正する規程

7月号
・北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程
・北海道大学通則の一部を改正する規則
・北海道大学大学院通則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員就業規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学短時間勤務職員就業規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園臨時職員就業規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学嘱託職員就業規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学職員労働時間，休憩，休日及び休暇規程並びに国立大学法人北海道大学船員労働時間，休日及び休暇規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学職員休職規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学総長選考会議規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

8月号
・北海道大学情報基盤センター規程の一部を改正する規程

9月号
・国立大学法人北海道大学契約職員就業規則等の一部を改正する規則

10月号
・北海道大学学生相談総合センター規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学総長選考会議規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学法人文書管理規程等の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学広報室規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学理事の任命及び任期に関する規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学成果有体物取扱規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学臨床研究データ利用許諾規程
・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
・北海道大学遺伝子病制御研究所規程の一部を改正する規程

11月号
・国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学職務発明規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学北大フロンティア基金規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学総長選考会議規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学内部監査規程等の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学総合IR室規程の一部を改正する規程

・国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
・北海道大学遺伝子病制御研究所規程の一部を改正する規程
12月号 ・国立大学法人北海道大学ハラスメント防止規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学アドミッションセンター規程の一部を改正する規程
・北海道大学入学者選抜委員会規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則
・国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程
・国立大学法人北海道大学未来戦略本部規程
・国立大学法人北海道大学役員給与規程の一部を改正する規程

研　　修

1月号 ・令和元年度国立大学法人北海道大学会計職員アドバンス研修「データ収集・分析力研修」
・令和元年度北海道地区国立大学法人等学生支援担当職員SD研修

表　敬　訪　問

1月号 ・中国科学技術部 辦公庁 Liu Yuxin 副主任
・駐日フィンランド大使館 Pekka Orpana大使
・駐日オーストラリア大使館 Richard Court 大使
・オーストラリア貿易投資促進庁 Brett Cooper 北東アジア担当ジェネラルマネージャー
・在札幌オーストラリア領事館 Ronald Green 領事
3月号 ・在札幌ロシア連邦総領事館 Sergei A. Marin 総領事
7月号 ・駐日ウズベキスタン共和国大使館 Gayrat FAZILOV大使
10月号 ・駐日ドイツ連邦共和国大使館 Ina LEPEL大使
・駐日インドネシア共和国大使館 Tri PURNAJAYA臨時代理大使
11月号 ・駐日パナマ共和国大使館 Carlos Pere大使
12月号 ・駐日オランダ王国大使館 Peter VAN DER VLIET 大使
・駐日ハイチ共和国大使館 Helph Monod HONORAT 大使

訃　　報

1月号 ・名誉教授　鈴木　旭　氏
3月号 ・名誉教授　小林　甫　氏
4月号 ・名誉教授　東　三郎　氏
・名誉教授　坂村　貞雄　氏
5月号 ・元総長　中村　睦男　氏
6月号 ・名誉教授　良村　貞子　氏
・名誉教授　菊地　昌實　氏
8月号 ・名誉教授　黒澤　悦郎　氏
・名誉教授　田川　遼三郎　氏
9月号 ・名誉教授　小島　賢治　氏
・名誉教授　菅原　一幸　氏
10月号 ・名誉教授　菊池　九二三　氏
・名誉教授　曽野　和明　氏

資　　料

4月号 ・令和２年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ
・令和２年度入学者の都道府県分布及び地域比率
6月号 ・在籍学生数（令和２年５月１日現在）
・令和２年度外国人留学生数（令和２年５月１日現在）
・令和２年度国別外国人留学生数（令和２年５月１日現在）
・役職員数（令和２年５月１日現在）
7月号 ・令和元年度卒業・修了者の就職等状況一覧
11月号 ・役職員数（令和２年10月１日現在）
・在籍学生数（令和２年10月１日現在）
・広報誌等一覧（令和２年10月調査）
12月号 ・令和２年度外国人留学生数（令和２年11月１日現在）
・令和２年度国別外国人留学生数（令和２年11月１日現在）
・北大時報掲載記事事項別一覧（令和２年掲載分）

編集メモ

● 北大時報をご覧いただきありがとうございます。本年も皆様のご協力により，北大時報を12号発行することができました。お礼申し上げます。令和２年は様々なイベントの中止，あるいは「オンライン」での開催など，昨年までとはまた違った本学の姿をお届けしました。工夫しながら新しいことを試行錯誤した１年になったかと思います。そんな新しい取り組みや，工夫しながら続けている取り組み等，是非「北大時報」へ来年もご投稿をお待ちしています。
　バックナンバーはウェブサイトからご覧いただけます。

今年前半の北大時報もソーシャルディスタンスで整列

裏表紙メモ

北海道大学のキャンパスの風景を様々な角度からご紹介する「キャンパス風景」。
12月号は冬の訪れを知らせるやわらかい雪の絨毯の上に色を添える落ち葉の風景です。季節の変わり目にしか見られない景色はどこか儚く美しいものです。

キャンパス風景 9 アイヌ・先住民族研究センター前の歩道（北8条西6丁目付近）

北大時報 ⑫　No.801　　令和２年12月発行

北海道大学総務企画部広報課　〒060－0808 札幌市北区北８条西５丁目
TEL：（011）706－2162 ／ FAX：（011）706－2092 ／ E-mail : kouhou@jimu.hokudai.ac.jp
北大時報はインターネットでもご覧いただけます。https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html